

三重大学 国際交流 年報 2022

Annual Report 2022

**International Activities of
Mie University**

第9号(通巻第23号)

Vol. 9

Contents

- I. 三重大学における国際化および国際交流
- II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動
- III. 国際交流センターの活動
- IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援
- V. 資料



大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～人と自然の調和・共生の中で～

基本理念(国際化)

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。



目次

Contents

巻頭言 副学長（国際交流担当）・国際交流センター長

2022年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり 01

I. 三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置	03
(1) グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成	03
(2) 留学生寄宿舎の整備・留学相談体制を充実させ、安心して学べる環境提供する	03
2. 協定大学との主な国際交流活動	04
(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム	04
(2) コンセクティブディグリープログラム（天津師範大学・中国）	04
(3) ダブルディグリープログラム（スリビジャヤ大学、パジャジャラン大学・インドネシア）	04
3. 国際交流事業の経費助成	05
(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度	05
(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ	06
(3) 外国人研究者受入れ	06

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 全学共通教育センター	07
(1) シェフィールド大学ELTC オンライン研修	07
2. 人文学部・人文社会科学研究科	08
(1) 2022年度タイフィールドスタディーに関する報告	08
3. 教育学部・教育学研究科	11
(1) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	11
(2) ホーチミン市師範大学のための科学教育研修の実施	11
(3) 文藻外語大學との「学術協力・交流に関する一般協定」（学部間協定）の締結	12
(4) 東紀州サテライトでの国際交流活動	13
4. 工学部・工学研究科	14
(1) ロイトリンゲン大学Thorsten Zenner教授の活動内容	14
(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））	16
5. 生物資源学部・生物資源学研究科	16
(1) 各種JICA教育プログラムの実施	16
(2) マレーシアトレンガヌ大学との対面での交流活動の再開	16
(3) 2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」	17
(4) パラオ共和国からの訪問団との交流	17
6. 地域イノベーション学研究科	19
(1) 第14回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2022）	19

III. 国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム	21
(1) 国際交流センター所属の協定校からの交換留学生	21
(2) 天津コンセクティブディグリー（接続学位）プログラム	21
(3) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース	21
2. 国際教育活動の概略	22
A. 日本語・日本文化教育プログラム	22
(1) 日本語研修（初級）集中コース	22
(2) 一般日本語教育科目コース	22
(3) コース別日本語科目・選択科目	24
(4) 市民開放授業	25
(5) 日本語基礎講座	25
(6) 協定校への日本語オンライン授業	25
(7) 日本語日本文化研修生（2022年度生）中間・最終発表会	25
(8) 日本語レベル判定試験（一般日本語コース, オンライン授業サービス, 市民開放授業）	25
(9) その他	25
B. 国際キャリアアッププログラム	25
(1) 英語による授業	25
(2) 2022年度 海外短期研修プログラム（国際交流センター実施プログラム）	26
3. 三重大学国際交流活動	27
(1) 「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解 （日本語ディスカッション）2022」	27
(2) 国際交流Days	28

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援	30
(1) 在留資格認定証明書代理申請	30
(2) 留学生ガイダンスの実施	30
(3) 私費外国人特待留学制度	30
(4) 奨学金に関する支援	30
(5) 留学生への就職支援	31
(6) 三重地域留学生交流推進会議の開催	31
(7) 日本人レジデントアシスタント（RA）	31
(8) 留学生会	31
(9) チューター制度	31
(10) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）	31
2. 海外留学支援	31
(1) 交換留学生の授業料免除制度	31
(2) 交換留学説明会	31

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第14期採択結果	32
(4) 奨学金に関する支援	32
3. 地域の国際化支援	33
(1) 留学生の地域派遣	33

V. 資料

1. 海外大学等との協定締結機関地図	34
2. 学術交流協定大学一覧	36
3. 2022年度 国籍別・学部別外国人留学生数	39
4. 三重大学生の海外派遣	40
(1) 交換留学による派遣	40
(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣	40
(3) 海外短期派遣プログラム（部局別）	41
5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績	42
6. 歴代国際交流センター長一覧	47



2022年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

2022年度国際交流年報の発刊にあたり、国際交流担当副学長としてご挨拶を申し上げます。地域共創大学としての三重大学の役割が、国際面においても十二分に発揮できるように知恵を出し、汗を流し、皆様と共に取り組んでゆきたいと思っていますのでご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

2022年度から国立大学の第四期期間が始まりました。三重大学では、ビジョン2030を策定し、「三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学」を掲げています。三重大学にとって最も大切な基本理念は、国際社会との繋がりを深め、地域社会との連携を強化しながら、様々な地域・分野で活躍できる人材育成と、世界トップレベル及び独創的な研究を遂行することとなっています。また、教育分野では、地域・社会・世界とのつながりを通して、行動する力を引き出す教育を行っていきます。三重大学の教育目標としている「4つの力」を「感じる力」「考える力」「コミュニケーション力」に「行動する力」を加えて総合的な「生きる力」として再構成し、ダイバーシティへの理解と、世界的視野を備えてグローバルに活躍できる人材を、国際交流や、地域の諸課題と向き合うことで育成していきます。

第四期において、留学生の受け入れと三重大学生の派遣等の国際交流を、第三期以上に活発にしていきたいと考えております。三重大学国際交流センターでは、三重から世界へ 世界から三重への概念の下、外国人留学生のための日本語教育や、修学・生活上の指導・相談はもちろん、日本に就職したい外国人留学生の支援を行っています。また、海外に興味がある日本人学生を応援しています。その例として、海外の交流協定校への交換留学、春期や夏期の語学研修などのプログラムを提供しており、大学が全面的にサポートしています。

三重大学の関係者以外の方で、何らかの形で本年報を手にする機会を得て、今回初めて目を通された方もあろうかと思えます。三重大学の国際交流の取り組みやその内容、成果について、ご意見やご要望、ご質問あるいはご批判、なんでも結構です。何かございましたら三重大学国際交流チームの編集部のほうに是非ご連絡いただけましたらと思えます。より実り多い三重大学の国際交流活動となるように皆様のご意見を活かしてゆきたいと思えます。最後になりましたが、寄稿していただきました皆さん、本年報の編集担当者に感謝申し上げます。



金子 聡
国際交流担当副学長
国際交流センター長



三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置

(第4期中期目標・中期計画 (2022～2027年度))

(1) グローバルな視点を持った国際的に活躍できる人材を育成

(目標)

学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携した国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、国際感覚を持った人材を養成する。

(計画)

国内外において、グローバルな視点を持って国際的に活躍できる人材を育成するため、国際共修授業であるCOIL授業を充実させるとともに、大学院在籍中に英語による論文作成や研究発表を経験した学生数を増加させる。また、優秀な留学生を戦略的に獲得・教育していくために、日本語教育プログラムを充実させる。

(2) 留学生寄宿舍の整備・留学相談体制を充実させ、安心して学べる環境提供する

(目標)

様々なバックグラウンドを有する人材との交流により学生の視野や思考を広げるため、性別や国籍、年齢や障害の有無等の観点から学生の多様性を高めるとともに、学生が安心して学べる環境を提供する。

(計画)

学生の海外留学及び留学生の受入れに関する取組を推進し、各部局等と連携しながら留学生を含む学生の生活及び修学支援を拡充させる。留学生寄宿舍の整備、及び留学に関する相談体制を充実させる。

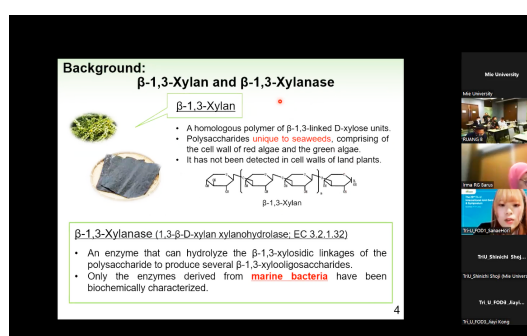
2. 協定大学との主な国際交流活動

(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー & シンポジウム

Tri-U国際ジョイント&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、IPB大学（インドネシア）、廣西大学（中国）、メージョー大学（タイ）の6大学が交代でホスト校を務め、毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。2022年度（第28回大会）は、IPB大学にて11月7日（月）～11月11日（金）の日程でハイブリッド形式で開催され、5カ国9大学から100名を超える学生・教職員が参加した（本学からは学生6名、教員5名の計11名がオンラインで参加）。本シンポジウム内では、「人口」、「食料」、「エネルギー」、「環境」、「Technosociopreneurship」（開催校が設定）」をテーマに、口頭発表やワークショップが行われた。



パフォーマンスの様子



口頭発表の様子

(2) コンセクティブディグリー・プログラム（天津師範大学・中国）

三重大学と天津師範大学は、「三重大学と天津師範大学との学術協力・交流に関する一般協定」（2014年11月18日締結）に基づき、共同でコンセクティブディグリー・プログラムを実施している。コンセクティブディグリー・プログラムとは、天津師範大学国際教育交流学院に在籍し、三重大学との間における、日本語コース共同教育プログラムに参加している天津師範大学の学生が、三重大学大学院に進学を希望する際に、専門分野や指導教員等のマッチング及び各種情報提供の機会を設ける等、三重大学大学院に進学するための支援を行うプログラムである。2022年春入学の同プログラム第4期生22名については、3年ぶりに、内8名の渡日が実現した。渡日が叶わなかった学生においては、オンラインで国際交流センターや教育学部などが提供する講義を受講した。

(3) ダブルディグリープログラム（スリビジャヤ大学、バジャジャラン大学・インドネシア）

ダブルディグリープログラムとは、博士前期課程1年次はインドネシアにおいて、2年次は日本において講義受講と研究を実施し、それぞれの研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの2つの修士の学位が授与される制度である。2008年に生物資源学研究科とスリビジャヤ大学がダブルディグリープログラムに関する協定を結んだ。その後、2012年にバジャジャラン大学とも協定が結ばれた。2022年度はスリビジャヤ大学ダブルディグリープログラム学生3名が在籍している。入国制限が解除され、対面での研究指導が再開されるにあたり、2022年9月に教員2名をスリビジャヤ大学へ派遣し、プログラムの運営方法について議論するとともに、対象コースの学生に対し説明会を実施した。プログラム修了生で再渡日して生物資源学研究科博士後期課程に入学、学位を得て帰国してスリビジャヤ大学の教員となった2名を始め修了者の多くが参集し、派遣した教員と旧交を温めた。また2022年12月にはバジャジャラン大学代表団が来日し、交流協定の更新とダブルディグリープログラムの運営について議論を行い、今後更にプログラムを発展させることに同意した。



スリビジャヤ大学での三重大学留学説明会参加者

3. 国際交流事業の経費助成

(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度

国際交流推進経費より、国際交流の取り組みに対し1部局あたり50万円、計13件の助成を行った。助成対象案件は次のとおり。

2022年度 三重大学国際交流事業経費助成申請一覧

	部局名	申請代表者	事業名（申請時の名称）	形成プログラム種別	対象国・地域	時期
1	全学共通教育センター	サコラヴスキージェシー	英語特別プログラム シェフィールド大学ELTCオンライン研修	■国際教育プログラムの開発や推進	連合王国	令和5年 3月6日～10日
	全学共通教育センター	サコラヴスキージェシー	英語特別プログラム English Immersion夏期集中講義	■その他（対面集中講義）	連合王国	令和4年 9月27日～30日
2	人文学部	綾野 誠紀	タイフィールドスタディ	■教職員派遣 ■学生派遣	タイ	令和5年 3月5日～13日
3	教育学部	荒尾 浩子	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	■学生派遣 ■国際教育プログラムの開発や推進	ニュージーランド	令和5年 3月7日～16日
4	医学系研究科	堀 浩樹	協定校との国際推薦制度特別奨学生制度	■国際教育プログラムの開発や推進	タイ, 中国	令和4年 10月頃
5	工学研究科	池浦 良淳	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施(継続令和4年度)	■教職員派遣	ベトナム	令和4年 11月頃
	工学研究科	池浦 良淳	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	■その他（国際教育プログラムの開発や推進）	ドイツ, インド, タイ, 中国, イタリア	令和4年 9月～12月頃
6	生物資源学研究科	中島 千晴	海外協定校における短期実習の多様化	■教職員派遣	マレーシア	令和5年 1月～2月頃
7	地域イノベーション学研究科	小林 一成	第14回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業	■その他（オンライン）	タイ, 台湾	2022年10月
8	国際交流センター	松岡知津子	三重大学海外フィールドスタディ2022	■教職員派遣 ■学生派遣	協定校	令和5年 3月5日～14日
	国際交流センター	福岡 昌子	海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション2022）	■その他（オンライン）	協定校	令和4年 11月9日～ 令和5年 1月25日
	国際交流センター	福岡 昌子	北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ	■その他（オンライン）	協定校	令和4年 8月17日～26日
	国際交流センター	正路 真一	ニュージーランド・ワイカト大学語学・異文化理解研修	■学生派遣	協定校	令和4年 9月3日～24日

I. 三重大学における国際化および国際交流

(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに、教育活動の一層の進展に寄与するため、これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。

短期招へい外国人教員の職務は、①受け入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導、②本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援、③部局専門領域での教育参加のほか、教養教育及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2022年度の外国人教員短期招へいプログラムは次のとおりであったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべて中止となった。

2022年度外国人短期招へいプログラム一覧

	学部・研究科	受入れ教員	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間
1	医学系研究科	堀 浩樹 賀来 隆二	Jane Chanda Kabwe	Ministry of Health, National Heart Hospital	麻酔科部門長	R4.8.1～R4.8.20
2	工学研究科	駒田 諭	Thorsten Zenner	ロイトリンゲン大学	教授	R4.9.9～R4.10.15

(3) 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため、教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は、

- ① 本学の教授、准教授、講師、助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。
- ② 原則として1カ月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は、あらかじめ定められた研究計画に従い共同研究に従事している。2022年度の受入は以下のとおり。

2022年度外国人研究者受入人数

受入部局	人数	国籍内訳
医学系研究科	8	タイ (2名)、中国 (4名)、ドイツ (1名)、シリア (1名)
工学研究科	5	中国 (3名)、タイ (1名)、イラク (1名)
生物資源学研究科	4	アメリカ合衆国 (1名)、インドネシア (1名)、中国 (2名)
人文学部	1	インド (1名)



各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 全学共通教育センター

(1) シェフィールド大学 ELTC オンライン研修

2015年度から始まった英語特別プログラムでは、1年間の学びの総仕上げとして、短期海外研修をシェフィールド大学英語教育センターにおいて実施している。コロナ感染状況の悪化による渡航制限のため、希望者を対象に、オンラインでの1週間（5日間）の研修に参加することで、プログラム受講生が1年の成果を試し、異文化に触れる体験をする機会を提供し、今後の学びへの動機づけを行った。

オンライン研修はすべての受講者に開かれており、様々な国籍、文化、背景をもつ学生から成る少人数クラスで独特な体験を提供する。受講者は「英語特別プログラム」に培った英語力を基に、さらにそれを発展させる機会をもつとともに、英語を学び続ける動機を強化した。

ELTC オンライン言語と文化プログラム 2023
<p>・実施日時: 2023年3月6日（月）- 2023年3月10日（金）* 18:00-22:00 JST + オンデマンド教材</p>
<p>・提供者: シェフィールド大学（イギリス） 英語教育センター（ELTC）</p>
<p>・参加者: 計14名 （教育学部2名；医学部4名；工学部2名；生物資源学部6名）</p>
<p>*当初は2月に予定されていたが、イギリス大学のストライキと重なるのを避けるために3月に変更された。</p>

オンライン研修の概要

オンライン授業は以下の内容を含む。

- ・毎日の英語力育成クラスでは4技能の習得を図る。
- ・様々な国、文化、経歴を持つ人々と少人数のグループで相互交流の機会をもつ。

授業スケジュールは以下のとおり。

オンライン授業について

Student Timetable - in Japan Time (JST)

6th - 10th March

Day & Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
18.00-19.00 Japan Time (JST)	Technology introduction Welcome and introduction to the course Getting to know you	Language development Food and drink food vocabulary/ adjectives; language for eating out	Language development Festivals festival vocabulary; question starters, e.g. 'How often...?'	Language development Shopping shopping vocabulary; complex questions; complaining	Language development Climate change vocabulary
19.30-20.30	Language development Britain and British culture listening and reading	Language development Britain's working coastline asking for & giving opinions; agreeing & disagreeing	Language development Construction in Britain communication strategies	Language development The origins of British idioms expressing certainty and possibility	Language development British wildlife keeping a discussion going
21.00-22.00	Language development Family vocabulary and idioms	Post-lesson task and discussion	Post-lesson task and discussion	Post-lesson task and discussion	Post-lesson task and discussion
(22.30-23.00) Self-Study	Self-study Communication skills lesson 1	Self-study Communication skills lesson 1	Self-study Pronunciation lesson 1	Self-study Pronunciation lesson 1	Self-study Communication skills lesson 2

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

オンライン授業の参加者アンケート

私は…に満足です	1 反対	2 どちらか 言えば反対	3 賛成でも 反対でもない	4 どちらか 言えば賛成	5 賛成	回答数	平均点
A. オンライン授業全体として		1	1	1	10	13	4.54
B. 英語力育成クラス		1	1	1	10	13	4.54
C. レッスン後の課題と議論		1	1	1	10	13	4.54
D. 付加的な教材 (オンデマンド / 授業外で実施)		1	1	4	7	13	4.31

オンライン授業の参加者のコメント

1週間という短い期間ながら、特にオンライン受講であるために、話す能力について、他国の学生の態度から大いに刺激を受け、積極的な発言、話題の選び方など、実りある会話をするために必要な要素について学ぶものが多く、それを自分でも実践するに至った学生もおり、苦勞した学生も含め多くの学生が有意義な機会を得たことを喜んでいる。

2. 人文学部・人文社会科学研究科

(1) 2022年度タイフィールドスタディーに関する報告

タイの国際NGOでの研修や現地学生との交流を通して、タイの現状と、そこから見えてくる日本を含む先進国の姿を知ることにより、各種メディアや文献だけでは知ることができないタイを含む東南アジアへの理解を深めることを目標として、以下の内容の研修を行った。

以下の2点を今回のタイフィールドスタディーの目標とした。

【タイフィールドスタディーの目標】

1. 国際協力型と政策提言型NGOが取り組んでいる課題に基づき、タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に、日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

タイフィールドスタディーの参加者は以下の通りである。

【参加者】

- 綾野 誠紀（リーダー、人文学部・教授）
- 土井 利幸（ガイド・通訳、NGO法人メコンウォッチ理事）
- 人文学部 学部生5名（文化学科1年生3名、法律経済学科2年生2名）

現地でのフィールドスタディーに先駆けて、計2回の事前研修を行った。事前研修はNGO法人メコン・ウォッチ理事 土井利幸氏が担当した。また、現地での活動を円滑に行うために打ち合わせを2回行い、詳細な研修用のマニュアルを参加学生が作成した。2回目の打ち合わせには土井氏も参加し、渡航前の最終的な確認を行った。

【スケジュール】

a. 事前研修：

第1回 2022年12月7日 12:10 - 13:40

「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」

第2回 2023年2月14日 13:00 - 14:30

「スラムと産業公害に対するNGOの活動」

b. 打ち合わせ：

第1回 2023年2月13日 14:30 - 15:30

第2回 2023年2月28日 13:00 - 14:30

フィールドスタディーは以下の内容と日程で実施した。

c. 研修内容及び日程：

3月5日（日）中部国際空港発

バンコク到着後オリエンテーション

3月6日（月）バンコク市内研修（タイの歴史）

3月7日（火）国際NGOシーカ財団での研修（貧困問題：バンコク市クロントーイ）

3月8日（水）協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）

3月9日（木）国際NGO EARTHでの研修

（環境問題：ウィン・プロセス・リサイクル社の事業による被害地域（ラヨン県ノンパウ村）

3月10日（金）国際NGO EARTHでの研修（環境問題：サナム・チャイ・ケット有機農業組合の取り組み）

3月11日（土）クレット島研修

3月12日（日）タイフィールドスタディーの振り返り

3月13日（月）中部国際空港着

参加学生はそれぞれ目標を設定し、事前学習をすることにより効果的な研修であった。最終日の振り返りでは、以下のような報告があった。

【参加者の感想】

- ・スラムや環境汚染といった厳しい状況の中でも、前向きに助け合って生きる人たちを見ることにより、現在の日本社会のあり方について考えさせられた。
- ・人と人のつながりを大切にしながら、自分達の環境を良くするために行動する大切さを知った。
- ・悲観的になりすぎないことの大切さを学んだ。
- ・新しい視点を持つことができた。価値観が広まった。
- ・英語力の向上も含め、自分の考えを言語化することの大切さを認識した。
- ・タイ独自の文化や歴史について学ぶことができた。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

【タイフィールドスタディー写真集】



バンコククロートイ地区（スラム）



バンコククロートイ地区
（シーカ財団 絵本図書室）



タイ史の講義担当のピヤワン准教授（タマサート大学）



タマサート大学の学生との交流



住民による汚染についての報告（ノンパウ村）



汚染状況の説明（ノンパウ村）



有機農業に関する説明（サナム・チャイ・ケット）



有機農園見学（サナム・チャイ・ケット）

3. 教育学部・教育学研究科

(1) オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施

教育学部ではニュージーランドのオークランド大学教育・福祉学部との連携により、2011年度より短期研修を実施している。現地の学校訪問やオークランド大学教育学部の授業に参加，異文化体験を行う教育研修プログラムである。新型コロナウイルスの影響で令和2年度、3年度はオンラインでの交流と教育研修プログラムを実施したが，本年度は年度途中で現地実施が可能となったことから，3月7日から3月16日にかけて，例年よりは期間は短いが現地での教育研修を実施することができた。参加学生は4名で，2名の教員があたり第10回目の実施となった。

プログラムを通して参加学生は，文化の違い，社会の多様性やそれを反映した学校教育のあり方，個々を尊重し能力を伸長する授業，ICTとアナログ的な活動を融合した教育活動など多くを目の当たりにし，体験的に学ぶと同時に現地の先生方の説明より多くの知識を得て，教育観を拡充した。異なる文化，教育理念，教育システムを知ることは，柔軟な思考，態度を身につけ，教員としての資質を豊かにすることに繋がった。参加学生はホストファミリーやオークランド大学の先生方や学生，訪問先の学校の児童や生徒と活発な交流を行うことができ，学生の国際交流に資する活動となった。



NZのセカンダリースクール（左）とプライマリースクール（右）の授業の様子

(2) ホーチミン市師範大学のための科学教育研修の実施

日本科学技術振興機構（JST）による「さくらサイエンスプラン」の支援を受けて，三重大大学の協定校であるホーチミン市師範大学（HCMUE）で理科教員を目指す学部生10名と引率教員2名を招へいし，「科学人材養成のための小中学生を対象としたプログラムに関する研修」を11月17日から11月24日に実施した。2015年度から招へいプログラムを始めており，今回は7回目となった。

本学では，理系分野に高い意欲や優れた能力を有する小学5年生から中学生を対象とした「ジュニアドクター育成塾（JST）」を運営するなど，理科教育の充実に力をいれて取り組んでおり，今回のプログラムでは，招へい者たちが三重県で行われている理科教育の現場を視察し，子どもたちの能力を最大限に引き出す指導法について思考を深めることを目的とした。

日本の科学教育が学校だけでなく，地域や科学館での体験を通じて行われており，ジュニアドクターや科学館での小さい頃の科学体験活動が高校における課題探求に重要であり。日本の科学教育について幅広く学ぶ機会となった。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



SSH校における参観



修了式での記念撮影

(3) 文藻外語大學との「学術協力・交流に関する一般協定」(学部間協定)の締結

令和4年度、文藻外語大學(台湾)と「学術協力・交流に関する一般協定」の学部間協定を締結した。今後、外国語人材を多数輩出する文藻外語大学との本協定により、教員間での共同研究および教育実践を促進することが期待される。後者の教員間の教育実践については、その一環として学生同士の交流を進める計画である。教育学部の学生は、教員免許取得に関連する活動が多く、時間的制約が理由で国際交流を体験する機会が得にくい。一方、日本語指導が必要な外国籍児童生徒の割合は全国でも2022年6月現在で第2位であることから、在学期間中に異文化への態度・理解を深めることが必須である。本協定により、教育学部の学生が短期間で国際交流に触れられる活動の企画・実施を推進する予定である。

2022年6月27日、協定締結に際してのオンラインミーティングを行った。三重大学からは、教育学部長・伊藤信成教授、前渉外委員長・須曾野仁志教授、現渉外副委員長・服部明子准教授他が出席し、文藻外語大学側は、歐亞語文學院院長・董 莊敬 副教授、日本語文系主任・陳 淑瑩 副教授、日本語文系国際交流担当チーフ・久保田 佐和子 助理教授、日本語文系国際交流担当・佐藤 圭司 専案 助理教授他が出席した。



協定締結に関するオンラインミーティング (2022年6月27日)

2023年2月6日には、教育学部・服部明子准教授、教育学部・溝口宏彦特任教授が現地の文藻外語大學を訪問した。文藻外語大學日本語文系主任・陳淑瑩副教授、国際交流担当・久保田佐和子助理教授、佐藤圭司助理教授らと両大学における教育への取組を相互に紹介し、今後の国際交流について、意見交換を行った。また、文藻外語大學が進めているICTを使った小学校英語教育の活動や留学生を対象とした中国語教育センターの施設なども見学し、日本と台湾の学校教育についても意見を交わすなど、大変有意義な交流となった。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



文藻外語大學訪問（2023年2月6日）



(4) 東紀州サテライトでの国際交流活動

東紀州サテライトでは、地域の教育委員会や学校からの要請を受けて、2つの国際交流を行った。

①尾鷲市立輪内中学校と高雄市（台湾）興達国民小学との国際交流授業の支援

「『英語が通じた!』という体験を児童・生徒にさせたい…」という先生方や教育委員会の依頼を受けて、令和3年度より尾鷲市立小・中学校と高雄市の小学校の国際交流授業の支援活動を行っている。本年度は10月と1月にGoogle Meetを使った国際交流授業支援を実施した。10月の交流前には、教育学部の服部明子准教授が台湾について事前学習の出前授業を行った。生徒からは「ゲームでは、英語だと何を言っているのかわかり、他国の人と交流するには世界共通語の英語で話すのがやっぱり一番簡単なんだと思いました。いつか台湾や他の国に行ってみて話してみたいな。」という感想が聞かれた。今「英語が通じたと実感できる経験をして、グローバルに活躍できる力を身につけてほしい」という思いで、東紀州教育学舎の全ての教員で支援を行った。



服部明子准教授の出前授業の様子



日本の朝食について発表する輪内中学校生徒

②ALT（外国人指導助手）研修の実施

紀北町・尾鷲市・熊野市の教育委員会の依頼を受け、ALT研修を実施した。本年度は合計4回の研修を行った。研修内容は「第二言語習得論」を中心とした、英語を母語としない日本の児童・生徒に対する効果的な指導法であった。ALTは様々な指導法（例：TPR全身反応教授法）を体験しながら学んだ。東紀州教育学舎では、ALT研修を開始して4年が経過し、延べ15名程度のALTに研修を実施した。英語で専門的な指導法を身につけることができるALT研修は、ALTだけではなく教育委員会からも非常に好評である。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



全身反応教授法を練習するALTの様子

4. 工学部・工学研究科

(1) ロイトリンゲン大学 Thorsten Zenner 教授の活動内容

ロイトリンゲン大学 Thorsten Zenner 教授は9月12日から10月13日まで、外国人教員短期招へいプログラムを利用して三重大学に滞在された。

工学研究科長室を訪問し、池浦研究科長、久保教務委員長、金子国際担当と面会した。工学研究科長から工学研究科の説明が行われ、懇談が行われた。

13日から1日2コマずつ4日間連続で、工学研究科の国際特別講義Iにおいて“Communication and Security”の講義を行った。さらに、10月4日から1日2コマずつ4日間連続で、工学研究科の国際特別講義IIにおいて“System Engineering”の講義を行った。10月から来日したドイツのロイトリンゲン大学からの交換留学生4名とフランスのパリ工芸大学交換留学生3名と三重大学の学生3名が参加して国際共修の形式で行われた。講義ではコンピュータを用いた実践活動が行われた。



9月27日には講堂小ホールにてDecentralized Hydrogen infrastructure（分散型水素インフラ）と題する講演会を工学研究科が主催、国際環境教育研究センターが共催となって開催した。本講演はSDGsの17の目標の中の7番目の「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と13番目の「気候変動に具体的な対策を」に関係しており、水素を活用したエネルギー供給を経済的に実現するための取り組みを、ロイトリンゲン大学におけるプロジェクトの紹介を含めて講演が行われた。講演

の後には会場で参加した方々から多くの質問が出た。参加者数を表にまとめたが、教職員32名、学生133名、合計165名が参加した。なお、Zoomによる配信も行った。

9月28日には工学研究科の情報処理／情報通信分野（研究領域C）の国際シンポジウムに参加し、学生のポスター発表を聴講した。国際シンポジウムでは、大学院博士前期課程の学生を中心に52

講演参加者

	講演会場	zoom	合計
教職員	13	19	32
(工) 博士後期課程	5	5	10
(工) 博士前期課程	38	53	91
工学部学部生	16	15	31
他学部学生		1	1
合計	72	93	165

件の発表があり、各学生のポスターを見学して回るとともに、学生と研究に関するディスカッションを行った。また、シンポジウムに参加していた電気電子工学専攻や情報工学専攻に所属している留学生と研究や日本での生活、卒業後のキャリアパス等についても意見交換を行った。

滞在の間には、電気電子工学専攻を中心として研究室見学を行い、教員・学生と交流を行った。



日本型工学教育を活用した高度産業人材育成プログラム

工学研究科が2022年度JICA 課題別研修「日本型工学教育を活用した高度産業人材育成」を開催した。12月2日（金）から12月16日（金）にかけ、カザフスタン（3名）、キルギス（2名）、トルクメニスタン（1名）、ウズベキスタン（3名）、モルドバ（1名）の研修生10名に対し、三重大学工学部中会議室において対面で実施された。プログラムの冒頭に池浦研究科長の挨拶があり、2週間にわたって、様々な講義や見学会が行われた。

本研修では、中央アジアの工学系大学の教員等を対象に、日本の実践的な工学教育の概要、高等専門学校及び工学系大学の教授法・カリキュラム・シラバス、産官学の連携の現状等に関する研修を行い、中央アジア諸国における高度産業人材育成の強化に貢献している。



2日（金）は、プログラムオリエンテーション、インセプションレポート（担当：金子教授）を実施した。5日（月）の午前に、鈴鹿医療科学大学・鶴岡教授が「日本の工学教育の概要」を講義した。午後に、横森コーディネーターが「日本・日本企業の特徴、日本企業の人材育成」を概説した。6日（火）の午前に、久保教授が「総合大学工学部の特徴・カリキュラム（三重大学を例にして）」を講義した。午後に、生物資源学研究科・王教授が「農学・生物系教育の特徴・カリキュラム（生物資源学部を例にして）」を解説した。7日（水）の午前に、国際環境教育研究センター・佐藤客員教授が「オンデマンドを利用した社会人リカレント教育・サイレッツについて」を講義した。午後に、鈴鹿工業高等専門学校・甲斐准教授が「高等専門学校の特徴・カリキュラム（鈴鹿工業高等専門学校を例にして）」を講義した。8日（木）の午前に、みえの未来図共創機構・狩野准教授が「工学教育における知的財産の重要性」を概説した。午後に、田中コーディネーターの案内により、富士フィルムマニュファクチャリング株式会社を見学した。9日（金）の午前に、共愛学園前橋国際大学・前川講師が、「工学部における文理融合型教育（東京工業大学を例にして）」を講義した。午後は、工学部・工学研究科の研究室見学を実施した。

12日（月）の午前に、金子教授の案内で、三重県環境保全事業団を見学した。午後に、三重県工業研究所・増山主幹研究員が「官（公設試験研究機関）と大学の連携による工学教育」を講義した。13日（火）の午前に、晝河助教が「工学教育における医工連携」を概説した。午後に、田村技術長が、「工学教育における技術員職員の役割」を講義した。14日（水）の午前に、三重TLO・飯田代表取締役社長が「工学教育における三重TLOの役割」を解説した。午後に、川中准教授の案内により、宇野重工株式会社を見学した。15日（木）の午後に、名古屋工業大学・猪股教授が「工業大学の特徴・カリキュラム（名古屋工業大学を例にして）」を講義した。16日（金）に、国別ディスカッションと成果報告会を実施した。

受講した研修生からは、「日本の工学教育を知ることができた」、「産学連携、就職システムなどが興味深かった」、「企業見学もあり、大変参考になった」などの感想もあがり、大変有意義な研修会となった。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））

国際Aは、若手・基盤等の科研費研究を発展させる目的で、概ね45歳以下の教員または研究員等が、原則半年から1年間、海外で国際共同研究を行うものである。申請は所属機関の承認を得て行い、派遣期間中の代替要員採用等も可能である。物理工学専攻の承認で申請された「メゾスコピック量子導体における情報流・熱流・電流のゆらぎ・基盤（C）」を基課題とする「ナノスケール量子導体における熱流ゆらぎ測定の理論」が採択され、前半の派遣（2019年9月-2020年2月）の後、コロナによる2年の延期と変更を経て、今回は後半（2022年7月-10月）の派遣が行われた。

派遣先のフィンランド・アールト大学応用物理学科（旧ヘルシンキ工科大）Jukka Pekola教授のPICOグループは、超伝導量子デバイスの作成・制御の実験研究の伝統を持ち、量子熱力学等の基礎学術研究からオンチップ極低温温度計等の研究開発などを行っている。また近年は、卒業生が量子スタートアップIQM Quantum Computersを起業するなど、超伝導量子コンピュータ構築の基盤技術を持つ。今回の内海准教授の派遣では、研究室所属の海外共同研究者Dmitry S. Golubev博士と、超伝導単一電子トランジスタ電流標準素子の性能評価理論の構築を中心に、量子周辺技術に関する理論共同研究を行った。また学術研究活動の他、前回派遣時と合わせて行った三重大学工学部同窓会支援による大学院生の短期留学を引き継ぐ形で、Zoomによる日芬間でのディスカッションやセミナー等、構成員の交流古活動も行った。

5. 生物資源学部・生物資源学研究科

(1) 各種JICA教育プログラムの実施

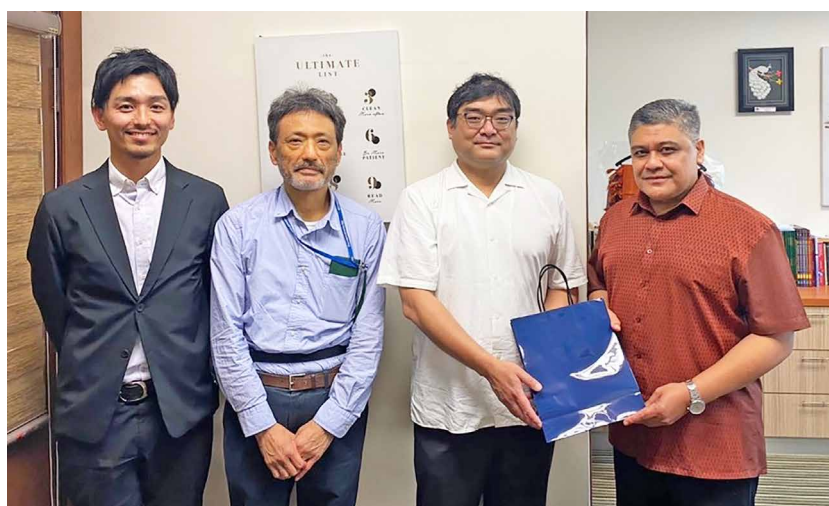
JICAによる発展途上国の国作りのための教育プログラムとして実施されている事業の多くに生物資源学研究科は参加している。今年度はアフリカ域を対象としたABEイニシアティブ事業（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth）、SDGsグローバルリーダー（SDGs Global Leader）の正規課程学生がコロナ禍でも来日を果たし、研究室での研究や、全国の大学との共通科目へ参加している。帰国前にはインターシップが予定されている学生もおり、非常に楽しみにしている。また、食料安全保障のための農業ネットワーク（Agri-Net: Agriculture Studies Networks for Food Security）による正規課程入学を目指す研究生の受け入れを行っており、研究室において博士後期課程への入学までに予備的な研究を遂行している。これらは、研究科がこれまでに整備していたオンライン会議設備やオンライン入試制度により、コロナ禍の残る本年度も事業が継続できた。これからも実績を積み重ね、「JICA開発大学院連携」による教育プログラムにより多くの途上国留学生が本研究科で学ぶことになる。

(2) マレーシアトレンガヌ大学との対面での交流活動の再開

マレーシアトレンガヌ大学（UMT）はこれまでの部局間協定から、大学間協定へ近年移行した重要な交流校である。実施予定であったUMTでのサマースクールは中止されたが、2023年1月に教員2名、事務担当者1名を現地へ派遣し交流行事を開催した。それらは、教員による学生対象のミニ講義、留学説明会、教員対象の研究マッチングミーティング、共同研究候補地へのフィールドトリップである。ミニ講義と留学説明会には学部学生から大学院生まで試験期間中にもかかわらず45名程が出席した。講義へも積極的に参加していて質疑応答も活発に行われ、三重大学での留学生活については熱心にメモを取る学生も多かった。教員対象の研究マッチングミーティング、共同研究候補地へのフィールドトリップでは、食品・水産科学部の教員との会議が行われて、生物資源学研究科の概要説明の後、既に実施されている共同研究や、卒業生である教員から進め方などの事例が報告された。フィールドトリップには産官学からの参加者があり、今後の共同研究の進め方について生物多様性条約に基づいた材料移転契約の方法等、より具体的な議論も行われた。2月2日にはTATI大学を訪問していた伊藤学長以下三重大学代表団が合流し、三重大学とUMTの環境活動が双方の事務担当者から紹介された後、今後の教職員および学生の交流について活発な議論がUMT代表団と三重大学代表団の間で行われた。



マレーシアトレンガヌ大学メンバーとの産官学フィールドトリップ



マレーシアトレンガヌ大学食品・水産科学部への表敬訪問

(3) 2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」

2022年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に工学研究科と共同で提案した「生物資源学と工学からのアプローチによる持続可能な地域と世界の構築をリードする研究人材の展開」が新たに採択された。今後、3年間にわたって、重点地域である東南アジア各国を中心とする協定校から、8名が生物資源学研究科と工学研究科の博士後期課程へ入学する。先行する特別プログラムと同じく、各々の専門領域に加えて三重大学の強みである実践的な環境教育と国内企業におけるインターンシップに取り組み、幅広い視点と地域貢献の方策について理解を深めるものである。

(4) パラオ共和国からの訪問団との交流

三重県の招待で、9月12日(月)～18日(日)の間三重県に訪れたパラオ農業研修訪問団一行15名が9月16日(金)三重大学生物資源学研究科を訪れ、教員及び学生と交流を行った。パラオ共和国訪問団のメンバーは、パラオ短期大学及びパラオ高校の教員と学生で農業を専門とする短期大学の学生と農業を目指している高校生だった。

まず、生物資源学研究科附帯施設農場にて、三島隆准教授から食料安全保障やパラオの農業事情、パラオに自生する未利用資源サゴヤシについて講義があり、活発な質疑応答が行われた。講義の後には農場内のさまざまな作物を見学し、特に学生の育てたナスやピーマンに興味を持って観察していた。また、生物資源学部校舎の大会議室にて、塚田森生教授からミバエについて講義があり、交流を行った。さらに、王秀崙教授からは、食料生産機械化と自動化について講義

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

を行った。パラオでは野菜が少ないため、野菜栽培に使用する作業機械に大変興味を持って真剣に聞き入れた。講義の後、生物資源学研究科環境情報システム工学講座の大学院生、4年生及び留学生と交流を行った。同じ農業を学ぶ学生、研究者らとの交流で、三重県とパラオの友好が深まることができた。

三重大学訪問日程

2022年9月16日（金）

午前中 研究者との意見交換会（三重大学附属農場）

◎生物資源学研究科 三島 隆准教授 食品加工に関する内容

13：00 - 14：30 研究者との意見交換会（生物資源学部大会議室）

◎生物資源学研究科 塚田森生教授 昆虫生態学に関する内容

14：40 - 16：10 研究者との意見交換会、学生との座談会（生物資源学部大会議室）

◎生物資源学研究科 王 秀崙教授 食料生産機械学に関する内容

◎生物資源学部 大学院生、4年生、留学生と交流

16：30 - 18：30 調理実習（橋北公民館・食工房）

◎三重県産の野菜を使って料理を作る実習

◎生物資源学部 大学院生、学部生、留学生との交流



6. 地域イノベーション学研究科

(1) 第14回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2022)

地域イノベーション学研究科では、2009年の研究科発足以来、地域イノベーション学に関連する研究者や学生が集まる国際ワークショップを本研究科主催で毎年開催している。今年度は、「The 14th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2022)：第14回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ」を2022年10月13日に地域イノベーションホールにて開催した。今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によって海外からの研究者や学生を招聘できない状況であったことから、対面・オンラインの同時開催とするとともに1日の開催に集約した。ワークショップ当日は、ソーシャルディスタンスによる空間保持、サーマルカメラによる検温やアルコール消毒などの感染予防措置を徹底するとともに、



また、バンケット中止の対応を取った。このような制約のある状況下での開催であったが、当日は対面86名・オンライン13名、合計99名の方に参加いただいた。海外からは、オンラインではあるものの、タイのChiang Mai University、台湾のAletheia UniversityとNational Taiwan Normal University、ベトナムのHo Chi Minh City Open Universityから10名の教員・学生の方々に参加していただいた。また、国内在住の外国籍の方も14名が対面参加し、国際色豊かなワークショップとなった。

14回目となる今回の国際ワークショップでは、タイChiang Mai UniversityのTanongkiat Kiatsirirot教授による「Energy Saving by PV-Heatpump for Cooling and Heating in Smart Building and Agriculture」と台湾Aletheia UniversityのC-P Lin教授による「Popular Culture and Country Image: Japan, South Korea, and Taiwan」の2つの招聘講演が行われた。本研究科および海外の学生による発表は、Engineering for Regional Innovation, Bio-Science for Regional Innovation, Social Engineering I, II, III for Regional Innovationの5つのセッションで合計17題の発表が行われた。



地域イノベーション学研究科の学生は、英語での研究論文の執筆や研究発表・質疑応答だけでなく、ワークショップ当日の運営も担い、世界の共通語である英語によるコミュニケーションを経験する貴重な機会を得ることができた。また、最優秀論文賞 (Best Outstanding Paper Award) として本研究科博士後期課程の小西凌さん、優秀論文賞 (Outstanding Paper Award) として本研究科博士後期課程の小笠原英城さん、Dafi Dinansyah Wiradimadjaさん、奨励賞 (Encouragement Paper Award) として台湾Aletheia UniversityのJian-Fu Chenさん、本工学研究科博士前期課程の並河楽空さん、本研究科博士前期課程の橋本卓実さんが選ばれ、小林一成研究科長から表彰された。



II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

最優秀論文賞 (Best Outstanding Paper Award)

“Change of “parent-child relationship” and discourse in Japanese magazines: Preliminary discussion by historical sociological approach”

Ryo Konishi

Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

優秀論文賞 (Outstanding Paper Award)

“Development of a sample preparation method for apramycin residue analysis in livestock products by LC-MS/MS”

Hideki Ogasawara^{1,2}, Mari Seko², Hiroshi Akiyama^{3,*}, Takeo Yano¹

¹ Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

² Tokai-techno co., ltd, Yokkaichi, Japan;

³ National Institute of Health Science, Kawasaki, Japan.

* Present position: Hoshi University, Tokyo, Japan.

“Ethical Dilemmas on Tofu Industry Environmental Management in Cibuntu Tofu Industry Center in Bandung City, West Java, Indonesia”

Dafi Dinansyah Wiradimadja and Hisatsuna Mori

Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

奨励賞 (Encouragement Paper Award)

“Does Innovation Stimulate Sales Performance? Evidence from Taiwan”

Chia-Hui Huang, Hsing-Wei Tseng and *Jian-Fu Chen

Department of Economics, Aletheia University, Taiwan

“Dependence of Substrate Off-cut Angle on N-polar Annealed Sputtered AlN and MOVPE grown AlN”

Gaku Namikawa¹, Kanako Shojiki^{1,4}, Riku Yoshida², Kenjiro Uesugi^{2,3} and Hideto Miyake¹

¹ Graduate School of Engineering, Mie University

² Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

³ Mie Regional Plan Co-creation Organization, Mie University

⁴ Graduate School of Engineering, Osaka University

“Realization of Al-Polar Annealed Sputtered AlN Using an Al Metal Target”

Takumi Hashimoto¹, Kanako Shojiki^{2,4}, Kenjiro Uesugi^{1,3}, Shiyu Xiao² and Hideto Miyake²

¹ Graduate School of Regional Innovation Studies, Mie University

² Graduate School of Engineering, Mie University

³ Mie Regional Plan Co-creation Organization, Mie University

⁴ Graduate School of Engineering, Osaka University



国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム

(1) 国際交流センター所属の協定校からの交換留学生

国際交流センターでは、交流協定のある海外の大学からの推薦により、4月または10月に留学生を受け入れており、滞在期間は最長1年間で、留学生は主に日本語コースの授業を受講する。2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、前期は特別聴講学生2名、後期は15名が渡日した。

(2) 天津コンセクティブディグリー（接続学位）プログラム

三重大学では2009年から天津師範大学との協定に基づき開始されたダブルディグリー（複数学位）プログラム、その後継として2019年から継続実施されてきたコンセクティブディグリー（接続学位）プログラムが実施継続されている。2022年度の第4期生は8名の学生が渡日し（14名はオンライン受講）、日本語能力の向上のため、事業に関わる授業以外に国際交流センターの一般日本語教育コースの授業を受講した。

(3) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース

大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生（日本語・日本文化研修留学生）、及び本学の交流協定校からの推薦による私費留学生（特別聴講学生）のためのプログラムである。母国の大学で日本語・日本文化に関する分野を専攻している学生を対象とし、日本語の能力を向上させながら、日本と自国・他国の文化の比較を通して文化の個別性と普遍性について理解を高めることを目指す。

2021年度後期～2022年度前期は、ベトナム、インドネシア、タイ、中国、ブラジルから各1名の計5名を受入れた。指導教員の下でそれぞれの研究テーマに基づいて調べ、国内外でデータ収集をするなどして研究を進めた。研究成果は2月に中間発表会、7月に研究発表会で披露された。留学生ならではの興味深いテーマや視点に刺激された参加者との間で、活発な質疑応答が交わされた。彼らの論文は、『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集XIX』として発行した。

日本語・日本文化研修留学生の研究内容一覧（2022年9月）

出身国（出身大学）	研究タイトル	指導教員
ベトナム （ホーチミン市師範大学）	日越翻訳における受動文の訳し方	松岡知津子 （国際交流センター・准教授）
インドネシア （バジャジャラン大学）	日本人学生とインドネシア人日本語学習者の日本語の「ガ・ケド」の使用実態	正路真一 （国際交流センター・助教）
タイ （チェンマイ大学）	タイ人日本語学習者の謙譲語の習得－タイ人日本語学習者と日本人を対象に－	福岡昌子 （国際交流センター・教授）
中国 （上海海洋大学）	バーチャルライバーの発展についての研究－にじさんじを例として－	松岡知津子 （国際交流センター・准教授）
ブラジル （バラナ連邦大学）	ブラジル人学習者による日本語授受表現の使用	2021年度後期：福岡 2022年度前期：正路 （国際交流センター教授/助教）

Ⅲ. 国際交流センターの活動

2. 国際教育活動の概略

国際交流センターの教育活動は、授業と海外（語学等）研修に分かれ、授業は主に留学生が対象のA.「日本語・日本文化教育プログラム」と、英語で学ぶB.「国際キャリアアッププログラム」の2つに分けられる。

「日本語・日本文化教育コース」は、留学生が日本語で受講するクラスが中心で、全学の留学生向けに日本語および日本文化に関する教育を提供するものである。共通教育科目「留学生と学ぶ日本」のように日本人学生と留学生が日本語で共に学べる（国際共修）授業もある。また、「国際キャリアアッププログラム」は、「Environmental studies」, 「Our World Heritage」等のように英語で学べる国際共修授業を提供している。

その他、海外のシンポジウムで研究発表と交流を経験する研修や語学留学等のプログラムを提供している。

A. 日本語・日本文化教育プログラム

国際交流センターが開講する日本語プログラムを受講するためには、原則として前期3月、後期9月に実施する日本語レベル判定試験を受けなければならない。日本語レベル判定試験は、本学独自の試験問題を作成しオンラインで実施した。

(1) 日本語研修（初級）集中コース

日本語初級レベルの留学生のために設けられたコースである。初級基礎Iコース、初級基礎IIコース、初級基礎IIIコースに分かれている。2022年度は計82名の留学生が受講した。

(2) 一般日本語教育科目コース

各留学生は、それぞれのニーズと日本語能力に応じて受講することができる。近年では、協定校の短期交換留学生の増加にともない特に中級コースの充実を、また日本で就職を希望する留学生の増加にともない「ビジネス日本語」などの上級コースの充実を図っている。

また、近年の傾向として、初級レベルの学生が中級I以上のコースへの進級率が低くなっているため、今後も日本語の授業を継続して学習できるように取り組んでいきたい。

2022年度の合格率や進級率は、次の通りである。前期の日本語各クラスの合格率は、基礎I：66.7%、基礎II：36.4%、基礎III：75.0%、中級I：60.0%、中級II：60.0%、上級：100.0%だった。全体では、合格率56.5%、進級率（帰国者を除く）は75.3%だった。一方、後期の日本語各クラスの合格率は、基礎I：50.0%、基礎II：50.0%、基礎III：100.0%、中級I：40.0%、中級II：76.5%、上級：86.5%だった。全体では、合格率56.3%、進級率（帰国者を除く）は67.0%だった。

国際交流センター開講科目一覧（2022年度）CIER Class List

コース名 Course	科目名 Subjects	曜日・限 Days/ Periods	担当教員 Faculties
初級集中基礎 I Intensive Basic I	総合 A/B Total A/B (※)	水 7~8 Wed 7-8	松岡知津子 Matsuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	月 3~6 Mon 3-6	太田 慶子 Oota
初級集中基礎 II Intensive Basic II	総合 A/B Total A/B (※)	水 5~6 Wed 5-6	松岡知津子 Matsuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	木 5~8 Thu 5-8	伊藤 晴苗 Ito
初級集中基礎 III Intensive Basic III	総合 A/B Total A/B (※)	水 1~2 Wed 1-2	福岡 昌子 Fukuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	火 3~6 Tue 3-6	仲渡理恵子 Nakato

Ⅲ. 国際交流センターの活動

中級Ⅰ Intermediate I		文法・読解A/B Grammar and Reading A/B (※)	月 3~4 Mon 3-4	百瀬みのり Momose
		作文A/B Writing A/B (※)	木 3~4 Thu 3-4	松岡知津子 Matsuoka
		聴解A Listening A (前期のみ/Only Spring Semester)	月 7~8 Mon 7-8	太田 慶子 Oota
		会話A/B Conversation A/B	金 1~2 Fri 1-2	大野 陽子 Oono
		文法B (後期のみ) Grammar (Only Fall Semester)	火 5~6 Tue 5-6	伊藤 晴苗 Ito
中級Ⅱ Intermediate II		文法・読解A (前期のみ) (※) Grammar and Reading A (Only Spring Semester)	前期: 月 5~6	前期: 福岡 昌子
		作文A/B Writing A/B (※: 後期のみ)	前期: 木 1~2 後期: 水 5~6	前期: 松岡 知津子 後期: 福岡 昌子
		聴解・会話A/B (※: 後期のみ) Listening and Conversation A/B	前期: 水 5~6 後期: 月 5~6	福岡 昌子 Fukuoka
		文法A (前期のみ) (※) Grammar A (Only Spring Semester)	月 9~10 Mon 9-10	太田 慶子 Oota
		読解A (前期のみ) (※) Reading A (Only Spring Semester)	火 7~8 Tue 7-8	仲渡理恵子 Nakato
オンライン Online	初級 Basic	日本語コミュニケーションA/B Japanese In Communication A/B	火 7~8 Tue 7~8	伊藤 晴苗 Ito
	中上級 Intermediate Advanced	中級Ⅰ 聴解B (後期のみ) Intermediate I Listening B (Only Fall Semester)	月 9~10 Mon 9-10	太田 慶子 Oota
選択科目 Electives		文字・語彙 1 A/B (※) Character and Vocabulary 1 A/B	火 1~2 Tue 1-2	大野 陽子 Oono
		文字・語彙 2 A/B (※) Character and Vocabulary 2 A/B	月 1~2 Mon 1-2	百瀬みのり Momose
		中級へのステップ・アップクラスA/B (※) Step-up to Intermediate Class A/B	金 3~4 Fri 3-4	大野 陽子 Oono
		上級総合日本語 1 A (前期のみ) Advanced Total Japanese 1 A (Only Spring Semester)	木 7~8 Thu 7-8	正路 真一 Shoji
		上級総合日本語 2 B (後期のみ) Advanced Total Japanese 2 B (Only Fall Semester)	月 7~8 Mon 7-8	福岡 昌子 Fukuoka
		日本事情 1 三重の社会と文化 (※) Japanese Culture and Society 1	火 9~10 Tue 9-10	正路 真一 Shoji
		日本事情 3 A/B 留学生と学ぶ日本 (※: 前期のみ) Japanese Culture and Society 3 A/B	前期: 水 9~10 後期: 水 9~10	前期: 福岡 昌子 後期: 正路 真一
		初級日本事情B (後期のみ) Basic Japanese Culture and Society B (Only Fall Semester)	水 9~10 Wed 9~10	松岡知津子 Matsuoka
日本語日本文化研修コース Japanese language & Culture Studies		日本語・日本文化演習A/B Japanese & Culture Seminar A/B	金 5~6 Fri 5-6	福岡, 松岡, 正路
国際キャリアアップ コース (英語) International Career Development Course (Taught in English)		日本事情2B 英語で学ぶ文化 (後期のみ) Japanese Culture and Society 2B (Only Fall Semester)	金 7~8 Fri 7~8	正路 真一 Shoji
		英語でエッセイA/B (★) English Short Composition A/B	木 1~2 Thu 1-2	マクダニエル・フロイド McDaniel
		世界遺産と私たちA/B (★) Our World Heritage A/B	金 1~2 Fri 1-2	マホニー・ブライアン Mahoney
		環境問題と地球A/B (★) Environmental Issues & Our Planet Earth A/B	金 3~4 Fri 3-4	マホニー・ブライアン Mahoney
	三重の社会と文化 (★) The Society and Culture of Mie (English)	火 7~8 Tue 7-8	正路 真一 Shoji	

コースコーディネーター: 初級集中基礎Ⅰ~Ⅲ・中級Ⅰ・・・松岡, 中級Ⅱ・上級・オンライン・・・福岡, 国際キャリアアップ・・・正路
(※) 市民開放授業設定科目
(★) 教養教育開放科目

Ⅲ. 国際交流センターの活動

(3) コース別日本語科目・選択科目

コース名	授業名	内容
初級集中基礎 I, II, III 【前期・後期】	初級基礎 I 総合	I. 日常生活に最低限必要な初歩的な日本語力を身につける。 II. 初級集中基礎 I 終了後の基本的な日本語能力身につける。 III. 初級集中基礎 II 終了後の基本的な日本語能力を身につける。 * 文法 (2コマ) では文法, 総合 (1コマ) では会話を中心に学ぶ。
	初級基礎 I 文法	
	初級基礎 II 総合	
	初級基礎 II 文法	
	初級基礎 III 総合	
	初級基礎 III 文法	
中級 I	初級レベルの基礎的な文法理解力, 語彙力, 会話力, 読解力を土台に, 留学生が大学で授業を受けるために必要な読解力および聴解力, 文章表現力を身につける。	
	文法・読解 【前期・後期】	新しい文法項目とことばの理解, 本文の内容の理解によって読解力を高め, さらに表現力も身に付ける。
	作文【前期・後期】	初級で学習した文法・語彙に加え, 新たな文法と語彙を使ってさまざまなトピックについて表現する。
	聴解【前期・後期】	初級日本語を基礎に, 日常に必要なコミュニケーション能力 (聴解・会話をメインに) を学習する。
	会話【前期・後期】	【前期】話しことばの特徴や発音, あいづち, 会話の構成などを学び, 会話力を身につける。 【後期】スピーチに必要な文法, 構成, 発音を学び, 実際にスピーチをする。
	文法【後期】	中・上級の文法形式を体系的に学び, 使い分けや類似表現を正確に理解する。
中級 II	専門の授業を受けるための, より高度な文法力, 読解力, 聴解力, 文章表現能力, コミュニケーション力等を身につける。	
	文法・読解【前期】	『日本文化を読む』(アルク)を丁寧に読み, 後半では課題として自分の好きな小説とその一節を発表する。
	作文【後期】	『留学生のためのここが大切文章表現のルール』(スリーエーネットワーク)を中心に学び, 文法を復習しながら作文力を高める。
	聴解・会話 【前期・後期】	【前期】日本文化と社会に関するインタビュー教材を聞き, 授業後半ではインタビューアになってインタビューした内容を発表する。 【後期】アニメ・ドラマ作品を通して日本語・日本文化を学び, 後半は好きなドラマ・アニメの場面を発表し, 聴解力を高める。
	文法【前期】	中・上級の文法形式を体系的に学び, 使い分けや類似表現を正確に理解する。
	読解【前期】	新聞記事を読み, 表現や文法, 内容を理解する力を養う。また, ニュースを聞き, キーワードや内容を聞き取る力を身につける。
	会話【後期】	ディスカッションに必要な表現を学び, グラフや統計資料を基にディスカッションをする。
上級 * 選択科目	専門分野で研究を行うために必要とされる高度な日本語能力を身につける。中級 II のコースを修了した者, または同等の日本語能力を有する者を対象とする。	
	上級総合日本語 1 【前期】	レポート・論文の書き方を学ぶ。各自が決めたトピックについてリサーチし, 実際にレポート・論文を書く。
	上級総合日本語 2 【後期】	ビジネス日本語として, ビジネス文書・会話, ビジネスマナー, 履歴書の書き方, 面接方法, 企業訪問を行う。
選択科目	授業名	内容
初級～中級 II	文字・語彙 1 【前期・後期】	ひらがな, カタカナ, および初級レベルの漢字を学び, また基礎的な語力を身につける。
	文字・語彙 2 【前期・後期】	日本語の文字・語彙を読む・書く機会をつくる。また, 専門科目に必要な文字・語彙を学び日本語能力を高める。
	中級へのステップアップクラス 【前期・後期】	中級レベルの日本語能力習得に必要な文法力, 読解力, 聴解力, 文章表現能力, コミュニケーション力等を身につける。
日本文化教育	日本事情 I : 三重の社会と文化 【前期・後期】	三重県についての基礎的な情報や文化を学び, またフィールドトリップを通じて実地体験する。
	日本事情 III : 留学生と学ぶ日本 【前期・後期】	留学生と日本人学生が, 日本の社会や文化について共に考え討論する。互いに異文化の視点を尊重し, 文化の違いを受入れることを学ぶ。

(4) 市民開放授業

国際交流センターでは、初級レベルの講義から日本語話者向けの講義まで、前期15科目・後期17科目の計32科目を市民開放授業科目に設定した。2022年度前期については1名（1科目）、後期についても1名（1科目）の受講があった。

(5) 日本語基礎講座

日本語基礎講座は国際交流センター開講時より開講されてきた。この講座は、学生だけでなく研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間がない外国人たち、外国人留学生の家族も対象とし、日本で生活するうえで最低限必要な会話力をつけることを目的としたものである。

2022年度は、9/5～9/9初級、2/21～3/24初級、3期間に渡り日本語講座を実施し、合計9名が毎回熱心にオンラインで受講した。授業では、日本の生活にすぐに役に立つ実践的な練習に取り組んだ。

(6) 協定校への日本語オンライン授業

コロナ禍により来日できない協定校の留学生を対象に、2021年度に引き続き2022年度も協定校へのオンライン授業を前期と後期に開講した。前期では、3か国から6名の留学生が「日本語コミュニケーションA」に参加し、後期では、4か国から6名の留学生が「中級I聴解・会話B」に参加した。

(7) 日本語日本文化研修生（2022年度生）中間・最終発表会

日本語日本文化研修生（2021年度生）の中間発表会を2/24にオンラインで、最終研究発表会を7/15に対面で実施した。研究の成果をパワーポイントにまとめ発表し、活発な質疑応答が行われた。

(8) 日本語レベル判定試験（一般日本語コース、オンライン授業サービス、市民開放授業）

2022年度は前期2022年3月28日、後期は9月13日に実施した。コロナ禍のためオンラインでの受験となった。

(9) その他

- ① 2022年1月30日上級総合日本語2B（ビジネス日本語）において、Zoomによる企業訪問を行い、松阪鉄工所（総務部1名）が企業説明および留学生との質疑応答を行った。
- ② 2月に留学生14名を対象に、外国人留学生対象御在所文化体験・日帰りスキーツアーを実施した。雪の降らない国出身の留学生も多く、初めてのスキーに悪戦苦闘しながらも楽しんだ。

B. 国際キャリアアッププログラム

「国際キャリアアッププログラム」と総称して、国際交流センターでは（1）英語による授業と（2）海外短期研修プログラムを実施している。（1）は三重大学の学生であれば留学生を含めて誰でも受講することができるものであり、また（2）は将来海外の大学や大学院への長期留学を希望する学生には特に推奨している。

(1) 英語による授業

英語で行われる授業の多くは共通教育センター開放授業であり、留学生だけでなく三重大学の学生は誰でも履修可能で、共通教育の単位が取得できる。2022年度に実施した科目は次頁のとおり。

Ⅲ. 国際交流センターの活動

2022年度国際キャリアアップ開講科目

国際交流センター 授業名	共通教育センター 授業名	内容
三重の社会と文化 【前期・後期】	三重学	留学生と日本人学生が三重の自然や歴史、文化や社会について学ぶ。
英語でエッセイ 【前期・後期】	国際理解特殊講義	Students practice writing short compositions in English. Learning American/English styles and formats.
世界遺産と私たち 【前期・後期】	国際理解特殊講義	This course introduces, explores and reflects upon the many wonders, both natural and man-made, that exist around our world.
環境問題と地球 【前期・後期】	環境学	Students study and evaluate various environmental issues to recognize the impact these pose to life and sustainability.
英語で学ぶ文化 【後期】	(開放なし)	留学生が日本の文化を学び、またそれぞれの出身国の文化について学びあう。

(2) 2022年度 海外短期研修プログラム (国際交流センター実施プログラム)

2022年度に国際交流センターが主催で実施した海外短期研修プログラムは以下のとおり。

① 「北京外国語大学：語学研修 & フィールドスタディ2022」 (三重大学国際交流推進経費助成)

2022年8月17日(水)～26日(金)まで、海外協定校の北京外国語大学の協力を得て、COIL授業の試みとしてオンラインで『北京外国語大学：語学研修&フィールドスタディ』を実施した。

三重大学からは11名、北京外国語大学からは9名の参加があった。北京外国語大学のテキストを使った中文系教員からの中国語指導、日文科の学生との協働学習および交流活動、日中経済協会北京事務所所長による「現代中国を知る」講演会を実施し、アンケートの結果好評を得た。

特に「中国への偏見を持っていたが本事業に参加することで偏見が払拭された」、「両国間の摩擦で交流が順調に進むか不安だったが楽しく交流できた」、「長期留学したくなった」という声が多く聞かれた。これまでは現地へ赴き経費を使った短期留学が主流であったが、事業内容によってはオンラインでも十分成果が達成できることがわかった。

8/15 (月)	8/16 (火)	8/17 (水)	8/18 (木)	8/19 (金)	8/22 (月)	8/23 (火)	8/24 (水)	8/25 (木)	8/26 (金)	
一斉休業	一斉休業	9:00～9:30 オリエンテーション ①日程について ②中国語について ③日本語学科との交流方法 ④テーママッチング結果 ⑤中国語の先生のご紹介	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語③ 10:05～10:55 中国語④ 11:05～11:55 中国語⑤	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑥ 10:05～10:55 中国語⑦ 11:05～11:55 中国語⑧	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑨ 10:05～10:55 中国語⑩ 10:55 連絡事項	9:00 Zoom 入室 9:05～9:55 中国語⑪ 10:05～10:55 中国語⑫ 10:55 連絡事項	9:00～10:30 ・グループ検討会 (i) ①グループ対面 ②発表内容の検討 メール交換・確認	9:00～10:10 中国語⑬ テスト (中国語⑬～⑭) 1人5分 10:10～10:30 中国語⑮ フィードバック まとめ、感想	9:00 Zoom 入室 ・グループ検討会 (ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成・完成 ・発表者はどうするか?	9:00 Zoom 入室 9:05～10:30 ・グループ発表発表会 9:05～9:25 Aグループ 9:25～9:45 Bグループ 9:45～10:05 Cグループ (10:05～10:25 Dグループ) 10:30～11:45 ・視察研修 (Zoom): 三重大・研究紹介、伊勢神宮? 北京外大紹介、故宫紹介、万里の長城? 北京・三重県の紹介 (学生発表: PPT or 動画) *総括 (1～3位の発表) ・記念撮影 ・報告書・アンケート提出 ・グループPPTの提出
●事前 Zoom 打合せ 8月2日 (火) 12:10～12:45 ①日程確認 ②中国語テキスト 配布 ③8月26日三重県紹介グループ決め ④参加者のリスト・メールアドレス ⑤アンケート報告 *事前打合せ後送付		9:30～9:55 Yu wenzuan 先生、中国語 オリエンテーション 10:05～10:55 中国語① 11:05～11:55 中国語② 11:55～12:00 連絡事項	11:55～12:00 連絡事項	11:55～12:00 連絡事項	11:00～11:55 ・北京外国語大学学生と対面式 ①日本語学科の先生のご紹介 - 貴純真 先生 - ②日本語学科の参加学生相互に自己紹介 ③グループ検討会の予定 ④テーマ・グループ発表	10:40 Zoom 入室 10:45～11:55 ・日中経済協会北京事務所所長の講演 一川会現所長 ・質疑応答 11:55～12:00 連絡事項	10:30～12:00 ・グループ検討会 (ii) ・発表内容の検討 ・PPTの作成	11:50～12:00 進捗状況確認、連絡事項	11:45～12:00 ・反省会 (三重生のみ) ・報告書の提出 (別紙) ・中国語のテスト結果	

図1. 北京外国語大学：語学研修および日本語学科との交流日程

② Tri-U国際ジョイントセミナー & シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学(日本)、チェンマイ大学(タイ)、江蘇大学(中国)、廣西大学(中国) IPB大学(インドネシア)、メジョー大学(タイ)の6大学が交代でホスト校をつとめ開催される英語による研究論文発表を中心とした国際交流プログラムで、研究論文のテーマは環境やエネルギー問題を中心としている。1994年以来28回目となる2022年度は、11月初旬にIPB大学で対面とオンラインのハイブリッド形式で開催された。本学からは、学生6名と金子特命副学長を含めた教員4名の計10名がオンラインで参加し、口頭発表やポスタープレゼンテーションを行った。

③ベトナム・フィールドスタディ (VFS)

3月5日から14日までの10日間、三重大学生とホーチミン市師範大学生によるベトナム・フィールドスタディ2022が行われ、4年ぶりに現地を訪問する形での研修が実現した。今年度より共通教育科目として単位が取得できるようになったことや、学生支援機構(JASSO)の支援が得られることとなったことなどがこれまでと大きく異なる。参加学生は、三重大学から16名、ホーチミン市師範大学から20名であった。

④ニュージーランド・ワイカト大学英語研修

夏期(9月3日から9月25日)と春期(3月8日から4月2日)の2回に渡り、ニュージーランド国立ワイカト大学にて英語研修が行われた。夏期は21名、春期は7名の学生が参加し、現地でホームステイをして滞在しながら、三週間の英語講座を受講した。

⑤マレーシア・タチ大学英語研修

春期(2月18日から3月11日)に、マレーシアのタチ大学にて英語研修が行われた。26名の学生が参加し、三週間の滞在で現地学生とのバディ制度を通して、主に、文化体験、自然体験、伝統工芸体験、ナイトマーケットなどを楽しんだ。

3. 三重大学国際教育交流活動

(1)「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ

日本語と異文化理解(日本語ディスカッション)2022」(三重大学国際交流推進経費助成)

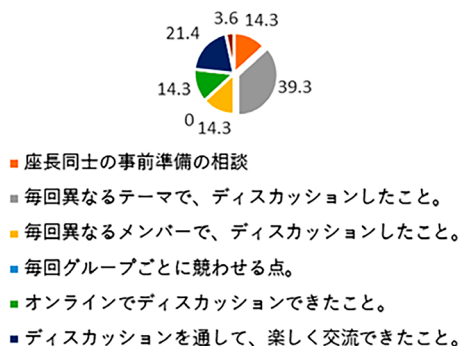
海外協定校の学生の日本語力の向上および学生相互の交流や異文化理解、留学生の獲得を目的に、昨年度に引き続き2022年度も、オンラインで「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解2022(日本語ディスカッション)」を実施した。

2022年11月9日～2023年1月25日まで、合計9回実施し、合計8か国28名が参加した。

(ハイデルベルグ大学2名(ドイツ)、安徽農業大学8名・江蘇大学2名(中国)、国立高尾師範大学1名(台湾)、ホーチミン師範大学5名(ベトナム)、サンパウロ大学1名(ブラジル)、パジャジャラン大学5名(インドネシア)、Maejo大学1名(タイ)、三重大学3名(日本))

本事業を実施したことで、本学の学生と協定校の学生との相互交流や異文化理解に貢献でき、コロナ禍において留学できずにいる協定校の留学生の日本語力の向上、学ぶ機会を提供することができた。また、海外協定校との国際交流を持続発展させることができた。今後も、継続・実施し、留学生の獲得に貢献したい。

Q1-2. 特に何が楽しいと思えましたか？



Q3-3.本授業を受けて三重大学(大学院)へ留学したくなりましたか？

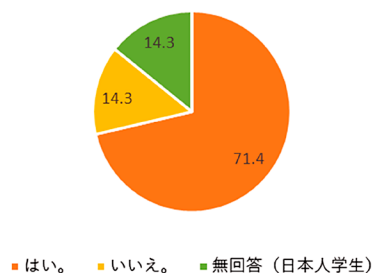


図2. 『日本語ディスカッション』アンケート結果から(出席率60%以上からの受講者の回収率100%)

Ⅲ. 国際交流センターの活動

(2) 国際交流 Days

国際交流センターでは毎年12月頃に「国際交流DAYS」と称し、留学生と三重大生が交流する場を提供するなど、学生らが国際感覚を身につけるイベントを企画・実施している。2022年度は、オンラインを含め計5つのイベントを企画・実施した。

①スポーツ大会

日時：12月4日（日） 場所：津市河芸体育館 参加者：約41名

生物資源学研究科の王秀崙教授主催のもと、留学生17名，日本人学生3名を含む合計41名がソフトバレーボールとバドミントンの2種目を楽しみながら三重華僑華人総会の方々と互いに親睦を深めた。



②「My Home University～私の大学紹介～」オンライン

日時：12月14日（水）・15日（木） 参加者：約46名

初日には、ホーチミン市師範大学（ベトナム）、ハイデルベルク大学（ドイツ）の2校，2日目には、啓明大学（韓国）、セントラルランカシャー大学（イギリス）、ボーフム大学（ドイツ）の3校の交換留学生が、それぞれの大学の魅力を建物や学食、寮などキャンパス内の様子やサークル活動日本との比較等、様々な視点から紹介してくれた。発表後には、参加者から活発な質問等があり、留学を希望する学生にも多くの刺激を与えた。



③てらこやサークル・ゲーム&お菓子交換会留学交流会

日時：12/16（金）

留学生支援サークル「てらこや」による、ゲーム&お菓子交換会が開催された。前半は参加者が持ち寄ったお菓子の交換会を行い、後半は百人一首を行った。留学生も多くの札を取り、にぎやかな会となった。



④外国人留学生のための日本文化研修（伊勢型紙体験）

日時：12/17（土） 参加者27名

鈴鹿市伝統産業会館を訪問し、体験学習を実施した。本文化研修は、留学生が日本の文化に直接触れ学ぶことを目的としており、伊勢型紙を実際に彫ってみる、使ってみることで、文様と技術の美しさ、楽しさを体感した。きれいなデザインに挑戦した留学生もあり、楽しいひと時を過ごすことができた。



⑤国際交流DAYS 留学生書道体験“Let's enjoy SHODO”

日時：12/21（水） 参加者24名

三重創生ファンタジスタ6名の学生さんのとても丁寧な指導のもと18名の留学生が日本文化の一つである書道を体験した。初めて毛筆に挑戦する学生も多く、最初は苦戦していたが、練習を重ねるうちにみるみる上達し、とても楽しそうな雰囲気であった。最後に自分の好きな漢字1文字を使ったオリジナルカレンダーを完成させた。





留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援

(1) 在留資格認定証明書代理申請

非正規留学生の在留資格認定証明書交付申請を国際交流チームが代理で行い、留学ビザ取得を支援した。

(2) 留学生ガイダンスの実施

例年新渡日の留学生を対象としたガイダンスを4月と10月に実施しているが、2022年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。代わりに対象学生には留学生ガイドブック（日・英）を配布し、三重大学での学生生活を送るための基本的なルール、日本での生活ルールについて個別に指導を行った。

(3) 私費外国人特待留学制度

本学独自の取組みとして2019年度に新設された。本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対し入学金及び全学免除を実施しており、2022年度は19名の留学生を特待生として支援した。

(4) 奨学金に関する支援

<三重大学独自の奨学金>

・三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として、月額2万円の奨学金を支給しており、2022年度は19名の交換留学生を奨学生として支援した。

・梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しているが、2022年度は、該当者がいなかった。

・三重大学「三重県民共済奨学金」

三重県民共済生活協同組合からの寄附金を基に正規課程に在籍する私費留学生を対象として月額5万円を1年間支給しており、2022年度は延べ7名の留学生を奨学生として支援した。

<各種民間財団等の奨学金>

各種奨学財団等からの募集に対し、留学生委員会において選考し、国際交流チームにて申請手続きを行っている。2022年度の受給実績は次のとおり。

奨学金名	受給人数（人）
文部科学省外国人留学生学習奨励費	10
ジャパンマテリアル国際奨学財団	10
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	5
ロータリー米山記念奨学会	1
三重韓国教育会奨学金	2
大塚敏美育英奨学財団	1
MHIベトナム奨学金	1

(5) 留学生への就職支援

日本で就職を希望している留学生を対象とした「外国人留学生の就活セミナー2022」を6月、11月、2023年1月の3度、開催した。それぞれ「就活のスケジュール」、「履歴書の書き方」、「面接の受け方」をテーマとし、延べ参加者数は26人となった。

(6) 三重地域留学生交流推進会議の開催

三重県内における留学生の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された組織で、2022年度はオンラインにて7月と2月に会議を開催し、新型コロナウイルス禍における参加各機関の留学生支援の取組状況等について情報交換を行ったほか、今後の地域における就職支援等について多岐に渡り活発な意見交換を行った。

(7) 日本人レジデントアシスタント (RA)

留学生寄宿舎のシェアルームには日本人学生がレジデントアシスタント (RA) として入居しており、国際交流会館及び留学生寄宿舎に入居する留学生と日々交流しながら、生活面におけるさまざまなサポートを行った。

(8) 留学生会

受入環境や支援体制の改善・留学生と日本人学生の交流促進・イベントの企画立案や運営について検討することを目的に、各国の代表者を選出し、月に一度意見交換を行った。

(9) チューター制度

チューター学生が新渡日留学生に日常生活に慣れない渡日後3カ月間、学校生活を始めるにあたってのサポートなどを実施する。2021年度より指導教員の先生が主体となって留学生とチューター学生のマッチングを行い、国際交流チームがマッチング補助を行っている。2022年度前期は19件・後期は83件、計102件のチューター業務実施活動があった。

(10) 留学生住宅総合補償 (機関保証制度)

留学生が民間宿舎へ入居するにあたり、保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し、円滑な入居を支援する制度である。留学生がこの制度に加入することで、三重大学が機関保証人となる。2022年度は35名の加入があった。

2. 海外留学支援**(1) 交換留学生の授業料免除制度**

本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について、協定に基づき、派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合、本学の授業料を免除することとしている。

(2) 交換留学説明会

年3回の交換留学学内選考会開催にあわせ、5月、9月、12月にオンラインで交換留学説明会を開催し、計約140名の学生が参加した。帰国済みの学生のほか、昨年度より、より生きた現地での留学生生活を伝えられるよう現地留学中 (当

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

時)の学生にZoom参加してもらっており、2022年度はセントラルランカシャー大学(イギリス)、ノースカロライナ大学ウィルミントン校(アメリカ)、梨花女子大学(韓国)、ハイデルベルク大学(ドイツ)派遣学生より発表を行い、参加者にとっては留学を現実的にイメージとしてとらえることのできるまたとない機会となった。

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」第14期採択結果

例年申請者に対し、申請書類へのアドバイスや、模擬面接等の支援を行っているが、2022年度は事業の募集が行われなかった。

(4) 奨学金に関する支援

① 三重大学国際交流特別奨学生制度

- ・外国の大学へ留学する学生への奨学事業

協定大学への交換留学生を対象として15万円を支給している。2022年度は14名の学生を支援した。

- ・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業

学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合、10万円を支給している。2022年度は該当する事業がなかったため実施されなかった。

② 海外留学支援制度

2022年度日本学生支援機構の海外留学支援制度において、次のプログラムが実施された。

<協定派遣>

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	採択 実派遣日数	採択人数
アジア圏異文化の涵養に資するマレーシア短期留学並びにグローバル感性の深化	全学部 全研究科(修士)	(工)金子	2023年2月～ 2023年3月	18	30
三重大学海外フィールドスタディ	全学部 全研究科	(国)松岡	2023年2月～ 2023年3月	8	15
三重大学-マレーシアタチ大学間の学生双方向・異文化交流の深化(派遣)	工学研究科 (博士前期課程)	(工)金子	2022年7月～ 2023年3月	21	4

<協定受入>

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	採択日数	採択人数
地域から世界のSDGsを実現する実践的生物資源学リーダー養成のためのインドネシア2大学とのダブルディグリープログラム	スリウィジャヤ大学 農学研究科 バジャラン大学 環境科学研究科 修士課程2年	(生)塚田	2023年1月～ 2023年9月	260日～ 273日	2
日本就職に資するマレーシアタチ大学優秀学生の受入れ	タチ大学 工学部工学科	(工)金子	2022年4月～ 2023年3月	150日～ 180日	3

<双方向協定型>

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	派遣/ 受入日数	採択人数
ドイツ語/日本語ステップアッププログラム【みえハイム】 Mie-Heidelberg Mutual international student exchange program	全学部	(国)松岡	2020年9月～ 2021年9月	5ヵ月～ 12ヵ月	派遣 4 受入 4

3. 地域の国際化支援

(1) 留学生の地域派遣

三重県内の教育機関等からの依頼を受け、以下のとおり国際交流行事等に延べ20名の留学生を派遣し、地域の学生等と交流を図り、地域の国際化に寄与した。

年月日	依頼元	依頼内容	留学生派遣人数
2022/11/6	津市	津市国際交流デー（屋台村・ワールドステージ）	13
2023/1/25	松阪子ども支援研究センター	多文化理解授業	2
2023/2/2, 2/10, 2/16, 2/20	津市役所	職員向け英語研修	5

2023年1月25日：留学生による日本の学校での多文化理解授業

松阪市立第四小学校にて「多文化理解授業」が実施され、ドイツ、ベトナムからの本学留学生2名が参加し、2年生82名と交流した。このイベントは、松阪市子ども支援研究センター主催で、子ども達が留学生から母国の生活や文化を学び、認め合う意識を養うことを目的に毎年実施されている。今回はの新型コロナウイルス感染症の影響もあり3年ぶりの開催となった。

2人は、スライドを使ってそれぞれの国旗や有名な食べ物、観光地などを紹介。さらに小学生の時の通学方法や制服などについても伝えていた。子どもたちは外国の生活・文化に大変興味を示していて、楽しんで授業に参加している様子が窺えた。質疑応答では、「お城には人が住んでいるの?」「ベトナムやドイツにしかないものはなんですか」などと次々と質問が飛び交っていた。



2023年2月2日～2月20日：津市役所向け英語研修

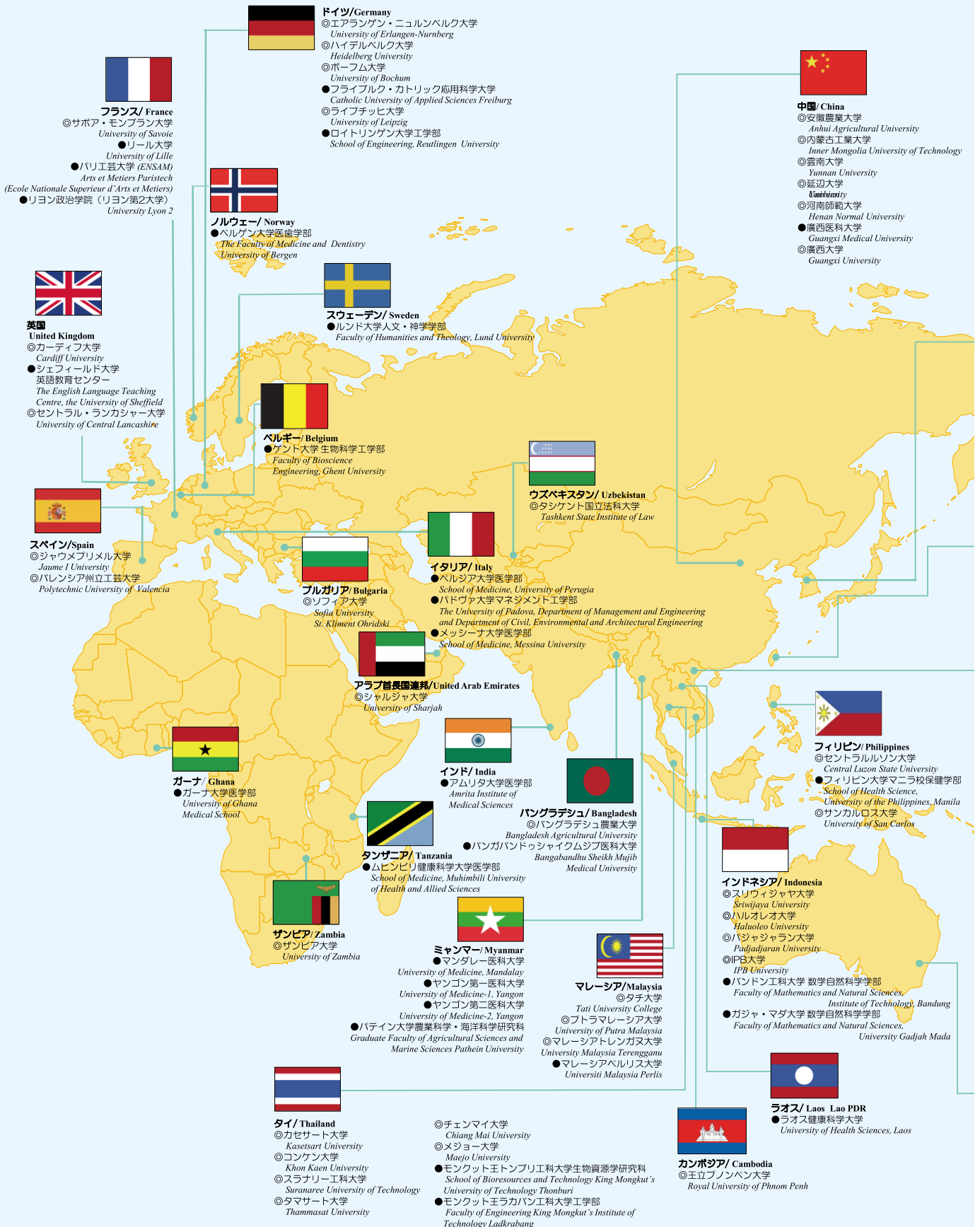
津市職員の外国語での窓口対応能力向上を目的に、英語研修が4回にわたって津市役所にて開催された。本学から外国人留学生5名（ベナン共和国・マレーシア・ベトナム・インドネシア・中国）が参加。参加した8名の津市職員の方々からは、窓口での外国人対応の基本を学ぶ事ができ、有意義な研修だったとの感想をいただいた。参加した留学生たちにとっても大変貴重な国際交流の場となった。





資料



1. 海外大学等との協定締結機関地図



国際交流協定締結機関 International Partner Institutions

- ◎江蘇大学
Jiangsu University
- ◎江南大学
Jiangnan University
- ◎上海海洋大学
Shanghai Ocean University
- 上海交通大学医学部
Shanghai Jiao Tong University School of Medicine
- ◎西安理工大学
Xi'an University of Technology
- 清华大学能源与动力工程系
Faculty of Thermal Engineering and Engineering Mechanics, Tsinghua University
- 浙江大学理学部
College of Science Zhenjiang University
- ◎天津師範大学
Tianjin Normal University
- 南開大学日本研究院
Institute of Japanese Studies, Nankai University
- ◎南京工業大学
Nanjing Tech University
- ◎北京外國語大学
Beijing Foreign Studies University
- 北京理工大学外国語学院
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
- 蘭州大学第2臨床医学院
The Second Medical College of Lanzhou University
- ◎鄭州大学
Zhengzhou University

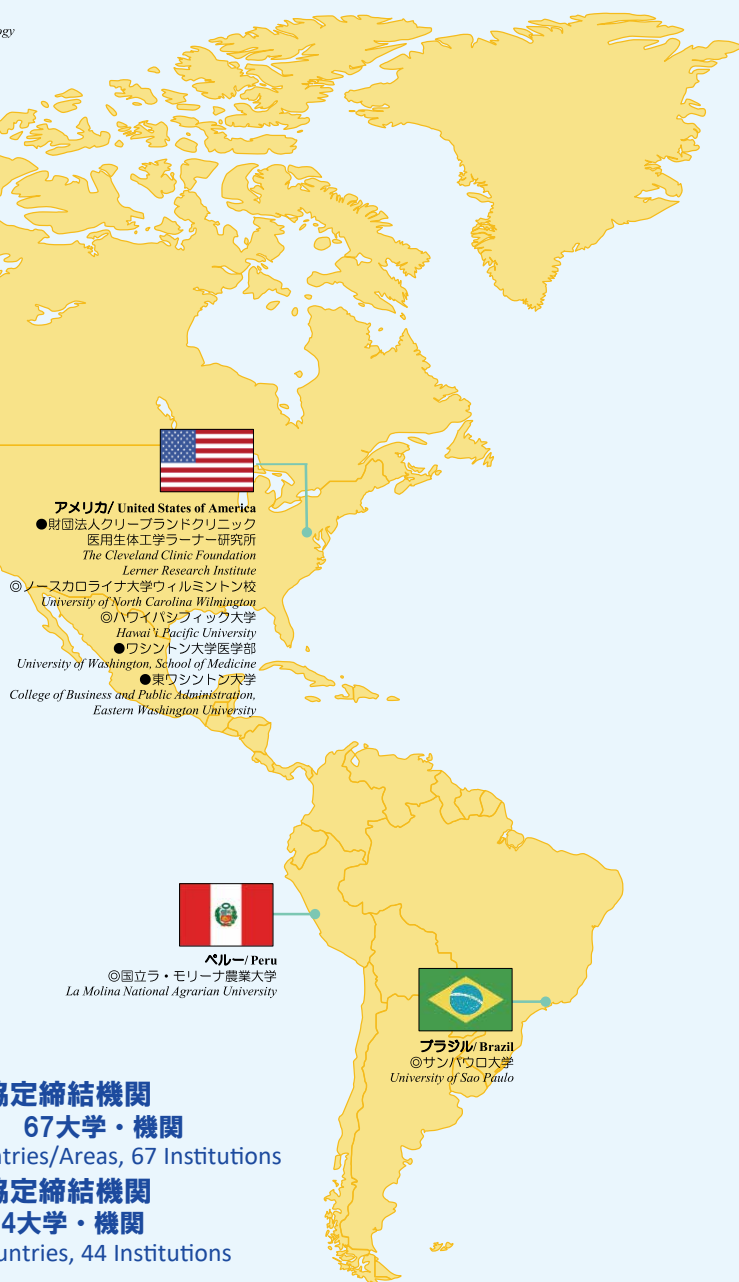
-  **大韓民国/Republic of Korea**
- ◎世宗大学校
Sejong University
 - ◎済州大学
Jeju National University
 - ◎東国大学校
Dongguk University
 - 釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋学部
College of Fisheries, College of Environmental and Marine Science and Technology, Pukyong National University
 - ◎梨花女子大学校
Ewha Womans University
 - ◎中央大学校
Chung Ang University
 - ◎啓明大学校
Keimyung University

-  **台湾/Taiwan**
- ◎国立高雄師範大学
National Kaohsiung Normal University
 - ◎真理大学
Aletheia University
 - ◎国立中山大学
National Sun Yat-sen
 - ◎国立金門大学
National Quemoy University
 - ◎南台科技大学
Southern Taiwan University of Technology
 - ◎国立台湾海洋大学
National Taiwan Ocean University
 - 国立成功大学 化学工程系所
Department of Chemical Engineering, National Cheng Kung University
 - 文藻外国語大学 欧亞語文學院日本語系
Department of Japanese College of European and Asian Languages Wenzao Ursuline University of Languages
-  **ベトナム/Viet Nam**
- ◎外国貿易大学
Foreign Trade University
 - ◎カントー大学
Can Tho University
 - ◎ホーチミン市師範大学
Ho Chi Minh City University of Education
 - ベトナム科学技術院(VAST)エネルギー研究所(IES)
Vietnam Academy of Science and Technology, Institute of Energy Science
 - ダナン大学科学教育大学
Danang University-University of Science and Education

-  **フィジー/Fiji**
- ◎フィジー国立大学
Fiji National University
 - ◎南太平洋大学
The University of the South Pacific

-  **ニュージーランド/New Zealand**
- オークランド大学教育学部
Faculty of Education, The University of Auckland
 - ◎ワイカト大学
The University of Waikato, The University of Waikato college

-  **オーストラリア/ Australia**
- ◎タスマニア大学
University of Tasmania
 - フлиндラス大学医学部
Flinders University, School of Medicine



◎大学間協定締結機関
23カ国・地域 67大学・機関
University Level: 23 Countries/Areas, 67 Institutions

●学部間協定締結機関
24カ国 44大学・機関
Faculty Level: 24 Countries, 44 Institutions

総協定大学数
33カ国・地域 111大学・機関
Total of 33 Countries/Areas,
111 Institutions

2023年4月1日現在
As of April 1, 2023

V. 資料

2. 学術交流協定大学一覧

(1) 大学間協定：24カ国・地域67大学・機関

2023年5月1日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	江蘇大学	中国	1986年01月15日	1995年09月29日
2	チェンマイ大学	タイ	1989年08月22日	1996年01月31日
3	タスマニア大学	オーストラリア	1996年04月01日	1996年04月01日
4	バレンシア州立工芸大学	スペイン	1997年07月04日	2003年01月10日
5	廣西大学	中国	1999年02月22日 (1995年04月21日：生物)	1999年02月22日 (1995年12月19日：生物)
6	カセサート大学	タイ	1999年12月23日	2000年07月24日
7	コンケン大学	タイ	2000年07月17日 (1994年08月25日：医学)	2000年07月17日
8	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	2001年03月16日	2001年03月16日
9	東国大学校	韓国	2002年12月16日	2004年03月24日
10	梨花女子大学校	韓国	2002年12月17日	2004年03月23日
11	西安理工大学	中国	2003年08月28日	2003年08月28日
12	スラナリー工科大学	タイ	2003年10月18日 (2000年09月08日：生物)	2003年10月18日
13	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004年03月15日	2004年03月15日
14	天津師範大学	中国	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)
15	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005年12月21日	2005年12月21日
16	江南大学	中国	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)
17	IPB大学	インドネシア	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)
18	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007年11月06日	2007年11月06日
19	タマサート大学	タイ	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)
20	南京工業大学	中国	2008年07月07日	2008年07月07日
21	ハイデルベルク大学	ドイツ	—	2008年12月12日
22	河南師範大学	中国	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)
23	世宗大学校	韓国	2009年02月10日	2009年02月10日
24	メジョー大学	タイ	2009年03月31日	2009年03月31日
25	外国貿易大学	ベトナム	2009年05月26日	2009年05月26日
26	ホーチミン市師範大学	ベトナム	2009年07月28日	2009年07月28日
27	上海海洋大学	中国	2009年09月24日 (1995年10月16日：生物)	2009年09月24日 (1996年10月24日：生物)
28	タシケント国立立法科大学	ウズベキスタン	2010年03月22日	2010年03月22日
29	内蒙古工業大学	中国	2010年03月31日 (2000年03月08日：工学)	2010年03月31日 (2000年11月13日：工学)
30	ハルオレオ大学	インドネシア	2010年07月23日	2010年07月23日
31	* ハワイバシフィック大学	米国	2010年09月13日	—
32	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)

大学・機関名		国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
33	延辺大学	中国	2010年10月15日	2010年10月15日
34	サボア・モンブラン大学	フランス	2010年11月04日	2010年11月04日
35	ボーフム大学	ドイツ	2011年03月28日	2011年03月28日
36	ジャウメプリメル大学	スペイン	2011年04月14日	2011年04月14日
37	カーディフ大学	英国	2011年07月15日	2011年07月15日
38	安徽農業大学	中国	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)
39	ライブチヒ大学	ドイツ	—	2012年02月07日
40	バジャジャラン大学	インドネシア	2012年02月24日	2012年02月24日
41	タチ大学	マレーシア	2012年05月24日 (2010年08月02日：工学)	2012年05月24日
42	ブトラマレーシア大学	マレーシア	2012年08月08日 (2006年09月19日：生物)	2012年08月08日
43	雲南大学	中国	2012年08月20日	2012年12月25日
44	北京外国語大学	中国	2012年09月21日 (2012年03月23日：人文)	2012年09月17日
45	セントラル・ランカシャー大学	英国	2017年01月31日	2013年04月19日
46	国立高雄師範大学	台湾	2013年06月18日	2013年06月24日
47	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013年08月23日	2013年08月23日
48	フィジー国立大学	フィジー	2014年05月05日	2014年05月05日
49	南太平洋大学	フィジー	2014年05月06日	2014年05月06日
50	カントー大学	ベトナム	2014年09月12日	2014年09月12日
51	国立中山大学	台湾	2014年11月04日	2014年11月04日
52	ザンビア大学	ザンビア	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)
53	国立金門大学	台湾	2015年06月23日	2015年06月23日
54	サンパウロ大学	ブラジル	2015年07月07日 (2011年5月16日：人文)	2015年07月07日
55	南台科技大学	台湾	2015年08月28日 (2014年11月14日：イノベ)	2015年08月28日
56	済州大学	韓国	2015年09月14日	2015年09月14日
57	ソフィア大学	ブルガリア	2016年09月19日	2016年09月19日
58	王立ブノンベン大学	カンボジア	2017年01月18日	2017年01月18日
59	国立台湾海洋大学	台湾	2019年01月03日	2019年01月03日
60	サンカルロス大学	フィリピン	2019年08月16日	2019年11月25日
61	中央大学校	韓国	2019年10月14日	2019年10月14日
62	真理大学	台湾	2020年01月14日 (2014年10月21日：イノベ)	2020年01月14日
63	☆ マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)
64	啓明大学校	韓国	2021年08月12日	2021年08月12日
65	鄭州大学	中国	2021年11月04日	—
66	セントラルルソン大学	フィリピン	2022年10月18日 (2018年8月1日：生物)	2022年10月18日 (2018年08月01日：生物)
67	☆ ワイカト大学	ニュージーランド	2023年01月31日	—

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学 ☆印の付いている大学は、授業料等について協議中

V. 資料

(2) 部局間協定：24カ国・地域 44大学・機関

2023年5月1日現在

部局名	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
全学共通教育センター	* シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015年09月10日	—
人文学部 人文社会科学 研究科	リール大学	フランス	1989年11月01日	2013年03月15日
	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002年01月21日	2002年01月21日
	南開大学日本研究院	中国	2010年01月22日	2013年03月18日
	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2011年03月18日	2011年03月18日
教育学部	* オークランド大学教育学部	ニュージーランド	2013年08月14日	—
	* 北京理工大学外国語学院	中国	2015年11月16日	—
	☆ 文藻外国語大学欧亜語文学院日本語文系	台湾	2022年07月19日	—
医学系研究科 医学部	上海交通大学医学院	中国	2004年08月11日	2009年12月01日
	廣西医科大学	中国	2006年06月06日	2020年09月01日
	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007年10月19日	2007年10月19日
	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010年02月18日	2010年02月18日
	ベルギア大学医学部	イタリア	2010年02月22日	2010年02月22日
	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011年03月17日	2011年03月17日
	ラオス健康科学大学	ラオス	2011年09月26日	2011年09月26日
	アムリタ大学医学部	インド	2012年01月30日	2012年01月30日
	ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012年12月17日	—
	フリントラス大学医学部	オーストラリア	2014年02月27日	2014年02月27日
	フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014年06月11日	2014年06月11日
	* ワシントン大学医学部	米国	2014年08月25日	—
	マンダレー医科大学	ミャンマー	2014年11月04日	—
	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015年07月23日	2015年07月23日
	ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015年10月22日	—
	バンガバンドゥシャイクムジブ医科大学 (BSMMU)	バングラデシュ	2015年07月27日	—
ベルゲン大学医歯学部	ノルウェー	2016年01月21日	—	
メッシーナ大学医学部	イタリア	2019年10月23日	2019年10月23日	
工学研究科 工学部	清華大学能源与动工程系	中国	1995年10月01日	1995年11月01日
	モンクット王ラカバン工科大学工学部	タイ	2005年09月05日	2005年09月05日
	浙江大学理学部	中国	2009年03月28日	2009年03月28日
	パリ工芸大学	フランス	2009年08月31日	2009年08月31日
	* 財団法人クリーブランドクリニック医用生体工学ラーナー研究所	米国	2011年04月22日	—
	パドヴァ大学マネジメント工学部	イタリア	2014年02月17日	2014年02月17日
	ベトナム科学技術院 (VAST) エネルギー科学研究所 (IES)	ベトナム	2014年09月30日	2014年09月30日
	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015年03月05日	2020年04月29日
	ガジャ・マダ大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年01月31日	2019年01月31日
	バンドン工科大学数学自然科学学部	インドネシア	2019年02月19日	2019年02月19日
	国立成功大学化学工程系所	台湾	2019年04月12日	2019年04月12日
	マレーシアペルリス大学	マレーシア	2021年12月27日	2021年12月27日
	ダナン大学科学教育大学	ベトナム	2022年02月24日	2022年02月24日
生物資源学研究科 生物資源学部	釜慶国立大学校 水産科学学部・環境海洋学部	韓国	1995年09月22日	2013年02月06日
	モンクット王トンブリ工科大学生物資源学研究科	タイ	2009年10月20日	2009年10月20日
	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015年03月09日	2015年03月09日
	☆ バテイン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016年12月04日	—
地域イノベーション学 研究科	☆ 東ワシントン大学	米国	2017年08月03日	—

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学 ☆印の付いている大学は、授業料等については現在協議中

3. 2022年度 国籍別・学部別外国人留学生数

(1) 2022年度 国籍別留学生数

	総数	(女子)
36ヶ国・地域	261	(136)

2022年5月1日現在

国・地域名	【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計	
	正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生		
アジア	中国	9 (3)	28 (20)	49 (20)	11 (9)	24 (20)	121 (72)
	韓国	14 (4)	5 (4)	1 (1)			20 (9)
	インドネシア			18 (8)		1 (1)	19 (9)
	ベトナム	9 (0)		4 (1)		5 (5)	18 (6)
	台湾		3 (1)	1 (0)	1 (1)	4 (2)	9 (4)
	マレーシア	1 (0)	1 (1)	6 (5)			8 (6)
	タイ		2 (0)	4 (2)		1 (1)	7 (3)
	フィリピン			5 (2)			5 (2)
	バングラデシュ			3 (1)	1 (0)		4 (1)
	ウズベキスタン		2 (1)				2 (1)
	カンボジア	1 (1)					1 (1)
	ミャンマー			1 (1)			1 (1)
	スリランカ			1 (0)			1 (0)
東ティモール			1 (1)			1 (1)	
アフリカ	ガーナ			4 (2)			4 (2)
	ザンビア			3 (1)			3 (1)
	エジプト			3 (2)			3 (2)
	アルジェリア			1 (0)			1 (0)
	ベナン共和国			1 (0)			1 (0)
	ケニア			1 (0)			1 (0)
	モザンビーク			1 (0)			1 (0)
	タンザニア			1 (0)			1 (0)
ヨーロッパ	イギリス		1 (0)				1 (0)
	スペイン				3 (1)		3 (1)
	ドイツ		5 (4)			4 (2)	9 (6)
	フランス		2 (2)		4 (1)		6 (3)
	オーストリア		1 (1)				1 (1)
	トルコ		1 (1)				1 (1)
	ブルガリア			1 (0)			1 (0)
ベラルーシ				1 (1)		1 (1)	
中東	シリア			1 (0)			1 (0)
中南米	メキシコ			1 (0)			1 (0)
	パラグアイ			1 (1)			1 (1)
オセアニア	バブアニューギニア			1 (1)			1 (1)
	ソロモン諸島			1 (0)			1 (0)
	バヌアツ			1 (0)			1 (0)
合計		34 (8)	51 (35)	116 (49)	21 (13)	39 (31)	261 (136)
		85 (43)		137 (62)		39 (31)	

() は、内数で女子学生数を示す。

正規生	非正規生
150 (57)	111 (79)

V. 資料

(2) 学部別留学生数

2022年5月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	12 (3)	41 (25)	10 (1)	11 (8)			74 (37)
教育学部・教育学研究科	0 (0)	7 (7)	1 (1)	0 (0)			8 (8)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	18 (12)	0 (0)	19 (13)
工学部・工学研究科	20 (4)	3 (3)	9 (4)	7 (3)	26 (10)	0 (0)	65 (24)
生物資源学部・生物資源学研究科	2 (1)	0 (0)	21 (7)	1 (0)	22 (8)	0 (0)	46 (16)
地域イノベーション学研究科			4 (3)	1 (1)	5 (3)	0 (0)	10 (7)
国際交流センター		39 (31)		0 (0)		0 (0)	39 (31)
計	34 (8)	90 (66)	45 (16)	21 (13)	71 (33)	0 (0)	261 (136)

() は、内数で女子学生数を示す。

4. 三重大学生の海外派遣

2022年度の三重大学における海外派遣数は、計113名であった。そのうち(1)交換留学による半年～1年の長期派遣の14名、(2)トビタテ！留学JAPANによる派遣が4名、(3)三重大学が提供する海外研修プログラム等による短期派遣が115名、(4)その他、国際学会への参加による派遣が5名であった。交換留学による派遣、海外短期派遣・オンライン実施プログラムの実績は次のとおり。

(1) 交換留学による派遣

現地への派遣

部局	国・地域名	大学名	人数
人文学部	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	2
	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
	イギリス	セントラルランカシャー大学	1
	韓国	梨花女子大学校	2
	スペイン	ジャウメプリメル大学	1
	台湾	国立高雄師範大学	1
	オーストラリア	タスマニア大学	1
教育学部	韓国	梨花女子大学校	1
	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	1
生物資源学部	台湾	国立高雄師範大学	1
工学部	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
地域イノベーション学研究科	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
合 計			14

(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣

部局	国・地域名	大学名	人数
工学研究科	アメリカ	マサチューセッツ工科大学	1
	アメリカ	ニューメキシコ大学	1
	アメリカ	ジョージア工科大学	1
教育学研究科	台湾	国立高雄師範大学	1
合 計			4

(3) 海外短期派遣プログラム (部局別)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインによる開催もしくは中止となった。

プログラム名	交流大学・機関・企業等	国・地域名	派遣期間	参加学生数
全学対象プログラム				
第28回国際ジョイントセミナー&シンポジウム	IPB大学	インドネシア	1週間	6
ワイカト大学夏期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	21
ワイカト大学春期語学研修	国立ワイカト大学	ニュージーランド	3週間	7
タチ大学春期英語研修	タチ大学	マレーシア	3週間	26
ベトナム・フィールドスタディ	ホーチミン市師範大学	ベトナム	5日間	16
北京外国語・フィールドスタディ	北京外国語大学	中国	8日間	11
国立高雄師範大学春期研修	国立高雄師範大学	台湾	5週間	2
国立高雄師範大学夏期研修	国立高雄師範大学	台湾	2週間	2
済州大学語学研修	済州大学	韓国	9日間	2
全学対象プログラム 計				93
人文学部				
タイフィールドスタディ	タマサート大学他	タイ	9日間	5
オックスフォード大学夏期英語研修	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	2週間	—
人文学部 計				5
教育学部				
海外教育実地研究	オークランド大学	ニュージーランド	15日間	4
教育学部 計				4
医学系研究科・医学部				
海外臨床実習	ワシントン大学	アメリカ	3週間	1
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	4週間	2
海外臨床実習	アマリタ大学	インド	4週間	2
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	4週間	2
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	5週間	3
海外臨床実習	ムヒンビロ健康科学大学	タンザニア	4週間	4
海外臨床実習	フィリピン大学	フィリピン	5週間	1
医学部・医学系研究科 計				12
工学研究科・工学部				
海外短期インターンシップ	タイ、フィリピン、ベトナムの日本企業等		4週間	1
工学研究科・工学部 計				1
生物資源学研究科・生物資源学部				
サマースクール	トレンガヌ大学	マレーシア	23日間	—
生物資源学研究科・生物資源学部 計				0
総計				115

V. 資料

5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育実績

(2022年4月1日～2023年3月31日)

<教養教育院>

学術論文

1. Sokolovsky, J. Adapting a Program for the Advancement of English Studies and Globalization Skills in the Face of COVID-19. *Mie University Journal of Studies on Higher Education*. Vol. 28. pp. 67-70. 2022.

学会発表

1. 福田知子, Linnik E. エゾクロクモソウ (ユキノシタ科チシマイワブキ属) の系統地理解析と種内分類との対応. 日本植物学会第85回大会 2021年9月16-19日. (オンライン開催)
2. Fukuda T., Linnik E. (2021) Phylogeny of *Micranthes fusca* (Saxifragaceae) and haplotype analysis. The 9th East Asian Plant Diversity and Conservation -Virtual Symposium 2021. Oct. 29-30, 2021, Sungkyunkwan University, Korea.

継続中の「共同研究についての契約」

福田知子 ウラジオストク植物園 (先方園長-三重大学長間, 2019年10月1日～2024年12月31日)

<人文学部・人文社会科学研究科>

[I] 講演

- ・忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2022 (タイ) 山田雄司・吉丸雄哉・川上仁一 9月5日プレー県ナリラット高校・ビリヤライ高校, 9月6日ナーン県サトリシーナン高校, 9月7日バンコク・チュラロンコン大学
- ・忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2022 (セルビア・ハンガリー) 山田雄司 11月1日セルビア・ベオグラード大学, 11月4日ブダペスト・ELTE大学
- ・山田雄司 11月3日講演「聖地伊勢・熊野」ブダペスト・Aranytíz Cultural Center
- ・山田雄司 2月18日・19日オンライン講演「忍者の実像」パリ C'est Bon ! Le Japon
- ・白石将人 關於張次立の小徐本校訂 (張次立の小徐本校訂について)
第三回早期中国經典研究学術シンポジウム 2022年12月18日
- ・Kyuma, Taiken (Opening Address and Keynote Speech) Introduction to the Vihāra Project. November 19, 2022 (Online International Symposium)
- ・Kyuma, Taiken (Keynote Speech) Indian Buddhist Monasteries and Secularity from the Gupta Period Onward: Introduction to the Vihāra Project. March 26, 2023 (International Workshop)

[II] JSPS外国人招へい研究者 (短期第2回) プログラムによる講演会 (受入研究者: 久間泰賢)

1. Amar, Abhishek Singh, Interactions with Built Environments of Bodhgaya. November 19, 2022 (Online)
2. Amar, Abhishek Singh, International Buddhist Monasteries and Modern Worship at Bodhgaya. November 23, 2022 (Online)
3. Amar, Abhishek Singh, Reimagining Hindu History: Rematerialization of Settlement Mounds and Buddhist Sculptures in the Magadha Region. December 3, 2022
4. Amar, Abhishek Singh, Reimagining the Buddhist Landscape of Ancient Rājagṛha/Rajgir. December 3, 2022

[III] 刊行物: 科研ニューズレター (英語版) Vihāra Project, vols. 1-7

※「三重大学学術機関リポジトリ研究教育成果コレクション」でオンライン公開 (<https://mie-u.repo.nii.ac.jp/>)

[IV] 講義

- ・2023年1月26日, 特別講義「キリシタン写本の世界」(対面・Zoomのハイブリッド形式)

基調講義：川口敦子「日本語学とキリシタン写本」

特別講義：ゾフィー・ノイツラ（日本学術振興会 外国人特別研究員）「アウグスト公図書館の日本から来た宝物－
Ein Schatz aus Japan in der Herzog August Bibliothek」

<工学部・工学研究科>

1. A. Nishimura, Y. Kojima, S. Ito, E. Hu
Impacts of Separator Thickness on Temperature Distribution and Power Generation Characteristics of a Single PEMFC Operated at Higher Temperature of 363 and 373 K.
Energies, Vol.15, DOI:10.3390/en15041558 (2022)
2. A. Nishimura, T. Kato, H. Mae, E. Hu
Impact of Black Body Material Enhanced Gas Movement on CO₂ Photocatalytic Reduction Performance.
Catalysts, Vol.12, No.470, DOI:10.3390/catal12050470 (2022)
3. A. Nishimura, N. Kono, K. Toyoda, D. Mishima, M. L. Kolhe
Impact of Separator Thickness on Temperature Distribution in Single Cell of Polymer Electrolyte Fuel Cell Operated at Higher Temperature of 90 °C and 100 °C.
Energies, Vol.15, No.4203, DOI:10.3390/en15124203 (2022)
4. A. Nishimura, D. Mishima, N. Kono, K. Toyoda, M. L. Kolhe
Impact of Separator Thickness on Temperature Distribution in Single Polymer Electrolyte Fuel Cell Based on 1D Heat Transfer Energy and Power Engineering, Vol.14, pp.248-273 (2022)
5. A. Nishimura, K. Toyoda, D. Mishima, S. Ito, E. Hu
Numerical Analysis on Impact of Thickness of PEM and GDL with and without MPL on Coupling Phenomena in PEFC Operated at Higher Temperature Such as 363 K and 373 K.
Energies, Vol.15, No.5936, DOI:10.3390/en15165936 (2022)
6. A. Nishimura, H. Mae, T. Kato, E. Hu
Utilization from Ultraviolet to Infrared Light for CO₂ Reaction with P₄O₁₀/TiO₂ Photocatalyst, Physics & Astronomy International Journal, Vol.6, Issue 4, pp.145-154 (2022)
7. A. Nishimura, H. Mae, R. Hannyu, E. Hu
Impact of Loading Amount of P₄O₁₀ on CO₂ Reduction Performance of P₄O₁₀/TiO₂ with H₂O Extending Absorption Range from Ultraviolet to Infrared Light. Physics & Astronomy International Journal, Vol.6, Issue 4, pp.186-194 (2022)
8. A. Nishimura, D. Mishima, K. Toyoda, S. Ito, M. L. Kolhe
Numerical Simulation on Effect of Separator Thickness on Coupling Phenomena in Single Cell of PEFC under Higher Temperature Operation Condition at 363 K and 373 K.
Energies, Vol.16, No.606, DOI:10.3390/en16020606 (2023)
9. L. Q. Sang, Q. Li, T. Maeda, Y. Kamada, D. N. Huu, Q. T. Tran, E. R. Sanseverino,
Study Method of Pitch-Angle Control on Load and the Performance of a Floating Offshore Wind Turbine by Experiments.
Energies, 16(6), 2762, 18p., 2023.
10. Z. Zhang, Y. Hayashi, T. Tohei, A. Sakai, V. Protasenko, J. Singhal, H. Miyake, H. G. Xing, D. Jena, Y. Cho
Molecular beam homoepitaxy of N-polar AlN: enabling role of Al-assisted surface cleaning.
2022/9/9, Science Advances, 8(36), eabo6408, American Association for the Advancement of Science
11. A. Dataesatu, K. Sanada, H. Hatano, K. Mori, P. Boonsrimuang
System Performance Enhancement with Energy Efficiency Based Sleep Control for 5G Heterogeneous Cellular Networks.
International Journal of Intelligent Engineering and Systems, vol.15, no.2, pp.232-242, April 2022.
12. A. Siriwanitpong, P. Boonsrimuang, K. Mori, P. Boonsrimuang
A Deep Learning-Based Channel Estimation for High-Speed Train Environments.
Proc. of 2022 19th Int. Conf. on Electrical Eng./Electronics, Computer, Telecommun. and Information Tech. (ECTI-CON2022), pp.1-4, May 2022.
13. A. Dataesatu, K. Sanada, H. Hatano, K. Mori, P. Boonsrimuang

V. 資料

Adaptive Repetition Control with Site Diversity for 5G NR Uplink Grant-Free URLLC.

Proc. of the 2023 IEICE General Conference, vol.com1, pp.310, March 2023

14. M. H. Suhag, I. Tateishi, M. Furukawa, H. Katsumata, A. Khatun, S. Kaneco
Application of Rh/TiO₂ Nanotube Array in Photocatalytic Hydrogen Production from Formic Acid Solution.
J. Compos. Sci., 6, 327 (2022).
15. Y. Utsumi, T. Kato, O. Entin-Wohlman, A. Aharony
Spin-Filtering in a p-Orbital Helical Atomic Chain.
Israel Journal of Chemistry”, e202200107.
16. Y. Utsumi, Y. Ito, D. Golubev, F. Peper
Computation time and thermodynamic uncertainty relation of Brownian circuits.
Frontiers of Quantum and Mesoscopic Thermodynamics 2022 (FQMT'22) 31 July - 6 August 2022, Prague, Czech Republic.

<生物資源学研究科・生物資源学部>

著書

Undarmaa, J., Yoshihara Y., Koyama A. & Okuro T. (2022) Possibility of introducing prescribed burning in Mongolian rangelands [Global Application of Prescribed Fire] (Edited By Weir R J., Scasta D.), CSIRO

学術論文

1. Yoshii, T., Matsumura, N., & Lin, C. (2022). Integrating UAV-SfM and airborne lidar point cloud data to plantation forest feature extraction. *Remote Sensing*, 14(7), 1713.
2. Kitagami Y, Obase K, Chen CF, Matsuda Y, (2022), Effects of climatic and edaphic conditions on structuring patterns of soil nematode communities in Japanese cedar (*Cryptomeria japonica*) plantations. *Forest Ecology and Management*, 524, 120518. <https://doi.org/10.1016/j.foreco.2022.120518>
3. Ito, D., Nakano, E., Karita, S., Umekawa, M., Ratanakhanokchai, K. & Tachaapaikoon, C. (2022) Characterization of a GH family 43 beta-xylosidase having a novel carbohydrate-binding module from *Paenibacillus xylanoclasticus* strain TW1. *J. Appl. Glycosci.*, 69: 65-71. http://doi.org/10.5458/jag.jag.JAG-2022_0001
4. Chaudhary, A., Hussain, A., Ahmad, Q., Ahmad, T., Minahai, Q., Karita, S. & Deeparanj, B. (2022) Watermelon peel hydrolysate production optimization and ethnogenesis employing yeast isolates. *Biomass Convers. Biorefin.* published 18 June 2022. <https://doi.org/10.1007/s13399-022-02923-1>
5. Li, B., Zhang, X., Morita, S., Sekiya, N., Araki, H., Gu, H., Han, J., Lu, Y. & Liu, X. (2022) Are crop deep roots always beneficial for combating drought: A review of root structure and function, regulation and phenotyping. *Agricultural Water Management* 271, <https://doi.org/10.1016/j.agwat.2022.107781>
6. Li, H., Li, L., Liu, N., Chen, S., Shao, L., Sekiya, N. & Zhang, X. (2022) Root efficiency and water use regulation relating to rooting depth of winter wheat. *Agricultural Water Management* 269, <https://doi.org/10.1016/j.agwat.2022.107710>
7. Horie, R., Miyasaka, T., & Yoshihara, Y. (2023). Grazing behavior of Mongolian sheep under different climatic conditions. *Journal of Arid Environments*, 209, doi.org/10.1016/j.jaridenv.2022.104890
8. Yoshihara Y., Aoki R., Sasaki T. & Kinugasa T. (2022) Predicted effects of simulated ambient warming and moisture on forage nutrient quality and community composition in arid Mongolian grassland. *Rangeland Journal*. 44, 159-164, doi.org/10.1071/RJ22027
9. Sasaki T., Nambu M., Iwachido Y., Yoshihara Y., Gantsetseg B. & Kinugasa T. (2022) Responses of plant productivity and carbon fluxes to short-term experimental manipulations of climate change and species loss in a Mongolian grassland. *Journal of Arid Environments* 198, 104690. doi.org/10.1016/j.jaridenv.2021.104690
10. Mertens, K, N., Carbonell-Moore, M. C., Chomérat, N., Bilién, G., Boulben, S., Guillou, L., Romac, S., Probert, I., Ishikawa, A., & Nézan, E. (2023). Morpho-molecular analysis of podolampadacean dinoflagellates (Dinophyceae) with description of two new genera. *Phycologia*, doi.org/10.1080/00318884.2022.2158281
11. Uy, R. J., Kayamori, M., & Nakashima, C. (2022). Characterization of *Penicillium* Species Isolated from *Dioscorea polystachya* in Hokkaido, Japan. *Mycoscience*, 64(1), 11-18. [doi:10.47371/mycosci.2022.11.002](https://doi.org/10.47371/mycosci.2022.11.002)

12. Miyamoto, K., Itata, A., Nakashima, C., Mishima, T., Tokuda, H., Yoshimatsu, T., & Ehara, H. (2022). Detection of Suitable Wetlands for Paddy Field Harvesting of Taro (*Colocasia esculenta*) to Minimize Damage Caused by Taro Beetles (*Papuana unionidis*) on Gau Island, Fiji. *Tropical Agriculture and Development*, 66(2), 64-72.
13. Chen, Q., Bakhshi, M., Balci, Y., Broders, K. D., Cheewangkoon, R., Chen, S. F., . . . Crous, P. W. (2022). Genera of phytopathogenic fungi: GOPHY 4. *Stud Mycol*, 101, 417-564. doi:10.3114/sim.2022.101.06
14. Owino, A. O. Nahar, N., Hossain, Z., and Tamaki, N. (2022), Dimensional influence of basalt fiber reinforcements on the consolidation behaviour of rice husk ash stabilized soils, *Construction and Building Materials*, Vol.339, 1-9, DOI: 10.1016/j.conbuildmat.2022.127686
15. Nahar, N., Hossain, Z. and Sanjia M. (2022), Assessment of the environmental perceptions, attitudes and awareness of city dwellers regarding sustainable urban environmental management: a case study of Dhaka, Bangladesh, *Environment, Development and Sustainability*, 1(1), 1-19, DOI: 10.1007/s10668-022-02354-y
16. Owino, A. O. Nahar, N., Hossain, Z., and Tamaki, N. (2022). Effects of basalt fibres on strength and permeability of rice husk ash-treated expansive soils, *Journal of Agricultural Engineering*, 53(1), p1-8. doi:10.4081/jae.2022.1315
17. Nahar N., Owino A.O, and Hossain Z. (2022), Influence of the initial setting of cement on the shear strength of rice husk ash stabilised soil, *Journal of Agricultural Engineering*, 53(4), 1-8. doi:10.4081/jae.2022.1411
18. Owino, A. O. and Hossain, Z. (2022), The influence of basalt fiber filament length on shear strength development of chemically stabilized soils for ground improvement, *Construction and Building Materials*, 374, 1-15. DOI: <https://doi.org/10.1016/j.conbuildmat.2023.130930>

国際会議プロシーディング

1. Owino, A. O. and Hossain, Z. (2022), The effects of rice husk ash dosage on compressibility and microstructural Development of stabilized calcite-rich river sludge, *Proc. 8th Int. Conf. on Structure, Engineering & Environment (SEE)*, Mie, Japan, Nov.10-12, 2022, ISBN: 978-4-909106094 C3051, Vol.8, pp. 282-290.
2. Owino, A. O. and Hossain, Z. (2022), A correlation between one-dimensional consolidation coefficients with basalt fiber length, RHA-cement content in fiber-reinforced stabilized expansive soils, *Proc. of the 12th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment*, Bangkok, Thailand, 22-24 November, 2022, ISBN: 978-4-909106087 C3051, Vol.12, pp.288-301.
3. Atef A.M., Owino A.O, Islam M.Y., Alam M.M., Rahman M.S. and Hossain M., Fundamental Properties of Soil and Rice Husk Ash Composite for Ground Improvement – A Review, *Proc. of the 12th Int. Conf. on Geotechnique, Construction Materials & Environment*, Bangkok, Thailand, 22-24 November, 2022, ISBN: 978-4-909106087 C3051, Vol.12, pp. 683-688.
4. Rahman M.S., Alam M.M., Owino A.O, Atef A.M., Islam M.Y. and Hossain Z., Seasonal Variation of Residential Indoor Air Quality in Mymensingh City, Bangladesh, *Proc. of the 8th Int. Conf. on Structure, Engineering & Environment (SEE)*, Mie, Japan, Nov.10-12, 2022, ISBN: 978-4-909106094 C3051, Vol.8, pp. 555-559.
5. Alam M.M., Rahman M.S., Owino A.O, Atef A.M., Islam M.Y. and Hossain Z., Environmental Impacts Assessment of Real Estate Project at Pallabi Eastern Housing Area in Dhaka City in Bangladesh, *Proc. of the 8th Int. Conf. on Structure, Engineering & Environment (SEE)*, Mie, Japan, Nov.10-12, 2022, ISBN: 978-4-909106094 C3051, Vol.8, pp.551-554.
6. Hossain M.Z. and Suksun H. (2022), *Book on Geotechnique, Construction Materials and Environment*, The GEOMATE International Society, Japan, ISBN: 978-4-909106087 C3051, 12(1), pp.1-688, 2022.
7. Hossain M.Z. (2022), *Book on Structure, Engineering and Environment*, The GEOMATE International Society, Japan, Geomate Int. Society, Japan, ISBN: 978-4-909106094 C3051, 8(1), pp.1-550, 2022.
8. Yustikasari L · Kitagami Y · Tanikawa T · Obase K · Chen CF · Matsuda Y 「Diversity and structure of arbuscular mycorrhizal fungi communities associated with Japanese cedar trees along a latitudinal gradient」 『Japanese Conference on Mycorrhiza2022』, Hokkaido University, Sapporo city, December 2022

国際貢献活動

1. ABE イニシアティブ修士課程及びインターンシッププログラム：アフリカ大陸54カ国；2015年～現在；国際協力機構（JICA）の長期研修員制度。アフリカにおける産業開発に資する日本とアフリカ各国間の人脈を形成し、日本企業がアフリカにおいて経済活動を進める際の水先案内人となる高度産業人材の育成を目指す。

V. 資料

2. SDGs グローバルリーダー・コース: アジア, 大洋州, 中南米, アフリカ諸国; 2021年～現在; 国際協力機構 (JICA) の長期研修員制度。アジア, 大洋州, 中南米, アフリカ諸国の行政官等が, 日本の大学院で学び学位取得を目指す長期研修プログラムで, 各国が抱える SDGs の政策課題の解決に向け, 政策決定のトップリーダーとなること, そして, 日本の関係者とネットワークを構築・強化するなど, 知日派人材の育成を目指す。
3. 食料安全保障のための農学ネットワーク (Agri-Net): アジア, 大洋州, 中南米, アフリカ諸国; 2021年～現在; 国際協力機構 (JICA) の長期研修員制度。農林水産分野における世界規模での課題である食料安全保障について, JICA と生物資源学研究科が幹事校である農学知的支援ネットワーク (JISNAS) を通じて長期研修員を受け入れ, 高度な研究人材の育成ネットワークを活用し, 参加大学での共通科目や共同での研修を行う。

<国際交流センター>

学術論文

1. 福岡昌子 (2023) 「COIL Trial: オンラインによる語学研修&フィールドスタディー-北京外国語大学: 中国語研修と日本語学科との学生交流-」『三重大学高等教育研究2023』第29号, pp.43-54.
2. 福岡昌子 (2023) 「三重大学海外協定校向けオンライン日本語講座—『日本語ディスカッション』—」『三重大学国際交流センター紀要』第18号 (通巻第25号), pp.107-118.
3. 松岡知津子・奥田久春 (2023) 「『三重大学海外フィールド研修』授業化への取り組みとその課題」『三重大学国際交流センター紀要』第18号. pp.125-136.
4. 松岡知津子・宋天鴻・小樋健汰「シナリオに見られる使役文の使用実態—『サセル』と『テモラウ』の互換性—」『三重大学国際交流センター紀要』第18号. pp.31-41.
5. 正路真一・松岡知津子 (2023) 「2022年度ワイカト大学英語研修報告」『三重大学国際交流センター紀要』第18号. pp.101-112.
6. Shoji, Shinichi.(2022). Syntactic, semantic and discourse effects on the processing of scrambled Japanese sentences. *Journal of Language Teaching and Research*, 13(3), pp.481-491.

6. 歴代国際交流センター長 一覧

	国際交流センター長
2005年度	亀岡孝治
2006年度	亀岡孝治
2007年度	小林英雄
2008年度	小林英雄
2009年度	松岡守
2010年度	松岡守
2011年度	朴恵淑
2012年度	朴恵淑
2013年度	堀浩樹
2014年度	堀浩樹
2015年度	堀浩樹
2016年度	堀浩樹
2017年度	堀浩樹
2018年度	堀浩樹
2019年度	吉松隆夫
2020年度	吉松隆夫
2021年度	金子聡
2022年度	金子聡
2023年度	金子聡



●三重大学国際交流ホームページ
(<https://www.mie-u.ac.jp/international/>)

発行/令和6(2024)年3月
国立大学法人 三重大学
問合わせ先/国際交流チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577
TEL 059-231-9924
FAX 059-231-5692
E-mail koryu@ab.mie-u.ac.jp
ホームページ <https://www.mie-u.ac.jp/international/>
印刷/伊藤印刷株式会社

